

[ホーム](#) > [CSR](#)

CSR

日清紡グループは、「企業公器」の理念に基づき、低炭素社会への最適解を提案する「環境・エネルギーカンパニー」グループを目指します。



▶ [マテリアリティとCSR目標](#)



▶ [環境](#)



▶ [人権・労働慣行](#)



▶ [公正な事業慣行](#)



▶ [消費者課題](#)



▶ [コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)



▶ [CSR調達基本方針](#)



▶ [企業倫理通報制度](#)



▶ [一般事業主行動計画](#)



▶ [CSR報告書（ダウンロード）](#)



▶ [編集方針](#)

[▶ サイトマップ](#)
[▶ サイトご利用上の注意](#)
[▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > マテリアリティとCSR目標

マテリアリティとCSR目標

マテリアリティ

現在、日清紡グループはグローバル規模で再編・統合・事業展開を進め、企業価値の向上に努めるとともにさまざまなステークホルダーから信頼されることを目指しています。日清紡グループの事業が社会とともに持続的に成長するために取り組むべき課題を明確にすることを目的として、2015年2月、当社グループのマテリアリティ（重要課題）を特定しました。

日清紡グループのマテリアリティ

- グローバル・コンプライアンス
- 環境・エネルギー分野の貢献
- 安心・安全な社会づくり

マテリアリティの特定プロセス

- 1. 検討対象の社会課題の抽出**

ISO26000、GRIガイドライン第4版、国連グローバル・コンパクト10原則などの社会的規範やCSR評価機関の調査項目などを参考に社会課題を整理しました。さらに当社グループの事業との関連性を評価し、検討対象の社会課題として22項目を抽出しました。
- ▼
- 2. 社会課題の優先順位づけ**

グループCSR会議での審議のなかで、抽出した社会課題を「ステークホルダーにとっての重要性」と「日清紡グループにとっての重要性」の2つの観点から優先順位づけを行い、試案を取りまとめました。
- ▼
- 3. 経営戦略会議での審議、承認**

日清紡ホールディングスの社長が議長をつとめ、全執行役員により構成する経営戦略会議でマテリアリティについて審議し、社会課題の大きさと当社グループ事業との関連性から上記3項目をマテリアリティとして特定しました。

第3期中期CSR目標

2016年度からの第3期中期CSR目標における重点活動項目は、社会的責任に関する国際規格ISO26000「7つの中核課題」に沿って下表の通り設定しています。

[労働安全衛生](#)、[環境分野](#)の目標については別途KPIを設定して活動を推進してきましたが、CSR活動をより確実に推進するため、2016年度はさらにCSR調達やコンプライアンスなど14項目のKPIを設定し、2017年度から取り組みを開始します。

CSR

マテリアリティとCSR目標

- ▶ 環境
- ▶ 人権・労働慣行
- ▶ 公正な事業慣行
- ▶ 消費者課題
- ▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展
- ▶ CSR調達基本方針
- ▶ 企業倫理通報制度
- ▶ 一般事業主行動計画
- ▶ CSR報告書（ダウンロード）
- ▶ 編集方針

第3期中期CSR目標

ISO26000中核課題	重点活動項目
組織統治	企業理念の浸透
	コンプライアンスの徹底
	内部統制の強化
	リスク管理の強化
人権・労働慣行	人権の尊重
	ダイバーシティの推進
	労働安全衛生活動の推進
	社員の健康づくり
環境	生物多様性保全活動の強化
	ライフサイクルアセスメント（LCA※1）の推進
	「持続可能な社会に貢献する製品」の拡販
	売上あたりの使用エネルギー削減
	売上あたりの温室効果ガスの排出量削減
	売上あたりのPRTR対象物質※2排出量削減
	リサイクル率の改善
公正な事業慣行	CSR調達の推進
消費者課題	品質・顧客満足度の向上
コミュニティへの参画・発展	社会貢献活動の展開

※1 ライフサイクルアセスメント：原材料から生産、使用、廃棄まで製品のライフサイクルをととした環境負荷量の把握

※2 PRTR（Pollutant Release and Transfer Register）対象物質：「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」に基づく制度の対象物質で、排出量・移動量の届出を義務付けられている物質

▶ サイトマップ ▶ サイトご利用上の注意 ▶ プライバシーポリシー

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > 環境

環境

基本姿勢

日清紡グループは、人間社会最大の課題である地球環境問題にソリューションを提供する「環境・エネルギーカンパニー」グループとして日清紡グループ行動指針に示された次の原則に基づき、自主的、積極的に、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

- 環境保全に関する国内外の関係法規・関係基準等を遵守するとともに、自主管理基準を積極的に設定して事業活動に取り組みます。
- 製品のライフサイクル全体の環境影響を評価し、持続可能な社会の実現に貢献する技術・製品・サービスを創造します。
- 環境マネジメントシステムを日清紡グループ全体に広め、省エネルギー・省資源、廃棄物の減量・リサイクルの推進、地球温暖化物質・環境汚染物質等の排出削減、生物多様性への配慮等により、地球環境の保全に努めます。
- 環境教育・啓発を通じて日清紡グループ全員の環境意識を高めます。
- 周辺環境との調和や地域環境に配慮した緑化等、生態系の保全に配慮します。

(日清紡グループ行動指針 より)



▶ 環境への取り組み



▶ マテリアルバランス



▶ 環境マネジメント



▶ 省エネルギー



▶ 地球温暖化防止



▶ LCA



▶ 省資源



▶ 水資源



▶ 化学物質管理

CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

環境

▶ 環境への取り組み

▶ マテリアルバランス

▶ 環境マネジメント

▶ 省エネルギー

▶ 地球温暖化防止

▶ LCA

▶ 省資源

▶ 水資源

▶ 化学物質管理

▶ 生物多様性

▶ 輸送量

▶ 環境貢献活動

▶ 環境会計、主要会社別環境データ

▶ 人権・労働慣行

▶ 公正な事業慣行

▶ 消費者課題

▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書 (ダウンロード)



▶ 生物多様性



▶ 輸送量



▶ 環境貢献活動

▶ 編集方針



▶ 環境会計、主要会社別環境データ

▶ [サイトマップ](#) ▶ [サイトご利用上の注意](#) ▶ [プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > 環境 > 環境会計、主要会社別環境データ

環境会計、主要会社別環境データ

(1) 環境保全コスト

日清紡グループの環境投資額は、1,194百万円となり、前年度比39%増加しました。

主な環境投資は、日清紡ブレーキ（株）館林事業所での新素材開発等の研究開発投資および日清紡ペーパー プロダクツ（株）のボイラーのLNG化に伴うものです。

日清紡グループの環境保全費用は、全体で3,575百万円となり、前年度比22%増加しました。

(2) 環境保全効果

日清紡グループの環境保全活動により温室効果ガス削減量は19,524トン-CO₂となり、前年度比944%増加しました。

日清紡ペーパー プロダクツ（株）のボイラーのLNG化による効果および新たに算出した廃棄物の温室効果ガス削減量を加算したのが主要因です。

(3) 環境保全対策に伴う収入

日清紡グループの環境保全対策による経済効果（収益額）は、406百万円と前年度比9%減少しました。

2016年度 環境会計集計表

(1)環境保全コスト

分類	投資額 (百万円)	前年度比 増減率	費用額 (百万円)	前年度比 増減率
公害防止コスト	209.0	-30%	666.2	-6%
事業エリア内				
地球環境保全コスト	420.0	+238%	155.0	+8%
資源循環コスト	0.2	-100%	547.4	+21%
上・下流コスト	0	-	43.7	+47%
管理活動コスト	0	-100%	355.5	+64%
研究開発コスト	564.1	+62%	1,042.4	-17%
社会活動コスト	1.0	-	5.0	-25%
環境損傷対応コスト	0	-	757.8	+523%
その他コスト	0	-	1.8	-73%
合計	1,194.3	+39%	3,574.8	+22%

CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

▼ 環境

▶ 環境への取り組み

▶ マテリアルバランス

▶ 環境マネジメント

▶ 省エネルギー

▶ 地球温暖化防止

▶ LCA

▶ 省資源

▶ 水資源

▶ 化学物質管理

▶ 生物多様性

▶ 輸送量

▶ 環境貢献活動

環境会計、主要会社別環境データ

▶ 人権・労働慣行

▶ 公正な事業慣行

▶ 消費者課題

▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書（ダウンロード）

編集方針

分類		(2)環境保全効果		(3)環境保全対策に伴う取入	
		温室効果ガス削減量 (t-CO ₂)	前年度比増減率	効果額 (百万円)	前年度比増減率
事業エリア内	公害防止効果	15	-89%	0	-
	地球環境保全効果	13,648	+736%	175.6	+307%
	資源循環効果	5,861	+6,181%	229.1	-39%
上・下流効果		0	-	0	-100%
管理活動効果		0	-	0	-
研究開発効果		0	-	1.2	+72%
社会活動効果		0	-	0	-
環境損傷対応効果		0	-	0	-
その他効果		0	-	0	-
合計		19,524	+944%	405.9	-9%

(注) 「-」：前年度額がゼロであったことを示します。

日清紡グループ主要会社別環境データ

[2016年度実績 \[65.9KB\]](#)

[2015年度実績 \[65.9KB\]](#)

[▶ サイトマップ](#)
[▶ サイトご利用上の注意](#)
[▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.





ホーム > CSR > 環境 > 環境への取り組み

環境への取り組み

中長期環境目標への取り組み

2016年度は、中長期環境目標達成のため、各中核会社の環境経営推進担当者によるマネジメントを一層強化しました。COP※121で採択されたパリ協定に基づく活動を国内外で推進していくため、LED照明の導入加速や石油エネルギーのガス転換等の省エネ・低炭素化に引き続き注力しました。

※1 COP (Conference of the Parties) : 締約国会議

第3期中期環境目標（2015～2018年度）と進捗評価

定性目標	2018 年度 目標	2016 年度実績	進捗評価※	
生物多様性保全活動の強化	『生態系保全先行推進モデル事業』の展開	10 事業所で活動推進中	○	
ライフサイクルアセスメント※2 (LCA) の推進	売上に占める割合 40%以上	売上に占める割合23%	○	
「持続可能な社会に貢献する製品」の拡販	売上に占める割合 40%以上	売上に占める割合45%	○	
売上あたりの使用エネルギー削減	2014 年度比 5%以上削減	2014 年度比 5.1%増加	△	
売上あたりの温室効果ガスの排出量削減	2014 年度比 5%以上削減	2014 年度比 5.3%増加	△	
売上あたりのPRTR 物質※3 排出量削減	2014 年度比 10%以上削減	2014 年度比 4.5%増加	△	
リサイクル率の改善[リサイクル率 = (リサイクル量) ÷ (リサイクル量を含む廃棄物総発生量)]	リサイクル率 90%以上	全体 84.7%	△	
	内訳			
	国内※4	98%	95.8%	○
	海外 (TMD 除く)	87%	85.3%	△
TMD	82%	70.4%	△	

※ 評価基準

○ 目標達成見込み △ 要対策 × 目標未達成見込み

※2 ライフサイクルアセスメント：原材料から生産、使用、廃棄まで製品のライフサイクルをとおした環境負荷量の把握

※3 PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) 対象物質：「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」に基づく制度の対象物質で、排出量・移動量の届出を義務付けられている物質

※4 旧美合事業所の埋設廃棄処分を除く

CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

▼ 環境

環境への取り組み

▶ マテリアルバランス

▶ 環境マネジメント

▶ 省エネルギー

▶ 地球温暖化防止

▶ LCA

▶ 省資源

▶ 水資源

▶ 化学物質管理

▶ 生物多様性

▶ 輸送量

▶ 環境貢献活動

▶ 環境会計、主要会社別環境データ

▶ 人権・労働慣行

▶ 公正な事業慣行

▶ 消費者課題

▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書 (ダウンロード)

長期環境目標

[▶ 編集方針](#)

日清紡グループの2025年度をターゲットとする長期環境目標は以下のとおりです。

長期環境目標

1. 「持続可能な社会に貢献する製品」の拡販
売上に占める割合を65%以上
2. 売上あたりの温室効果ガスの排出量削減
2014年度比15%以上削減
3. リサイクル率の改善
リサイクル率95%以上

[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > 環境 > マテリアルバランス

マテリアルバランス

日清紡グループの事業活動と環境負荷は、下表のとおりです。
主たる子会社の[環境データシート](#)も公開しています。

インプット

エネルギー使用量	11.89 百万GJ^{※1}
電力	860.9 千MWh
内 太陽光発電量 ^{※2}	1.25 千MWh
石炭	77 千t
重油	6 千kL
都市ガス(天然ガスを含む)	29.8 百万m ³
水総使用量	26,579 千m³
地下水	16,230 千m ³
工業用水	8,761 千m ³
原材料 総投入量	422.1 千t
鋼材	103.4 千t
ブレーキ用粉材料	85.2 千t
化学物質	71.7 千t
パルプ(古紙パルプ含む)	62.8 千t
綿花・綿糸	31.4 千t
梱包材	22.8 千t
PRTR対象物質 ^{※3} 取扱量	3,549 t
OA用紙使用量	73,798 千枚



アウトプット

温室効果ガス^{※4}	800.7 千t-CO₂
エネルギー起源 ^{※5}	741.6 千t-CO ₂
非エネルギー起源 ^{※6}	59.1 千t-CO ₂
大気への排出	
NOx	268 t
SOx	240 t
VOC ^{※7}	70 t
ばいじん	56 t
水系への排出	
排水量	25,232 千m ³
COD ^{※8}	331 t
SS ^{※9}	124 t
PRTR対象物質	
排出量	37.2 t
移動量	293.8 t
廃棄物総量	74.2 千t
リサイクル廃棄物量	62.8 千t
製品	384.1 千t
太陽光発電量	3.87 千MWh
輸送量^{※10}	81.7 百万トンキロ

※1 GJ (ギガジュール) : エネルギーの単位で、1GJ = 10⁹J = 約 24 万キロカロリー
 ※2 再生可能エネルギー固定価格買取制度での売電量を除く
 ※3 PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) 対象物質:「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」に基づく制度の対象物質で、排出量・移動量の届出を義務付けられている物質
 ※4 温室効果ガス排出量の集計にあたっては、環境省が発行している「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく「算定・報告・公表制度」における算定方法「排出係数一覧」に準じた二酸化炭素排出換算係数を使用しています。また、石炭は生産者より提供された係数を使用しています。
 二酸化炭素排出量算出に用いた換算係数
 電力 0.587 t-CO₂/MWh ガソリン 2.322 t-CO₂/KL
 石炭 1.890 t-CO₂/t 軽油 2.585 t-CO₂/KL
 A重油 2.710 t-CO₂/KL 都市ガス 2.234 t-CO₂/千m³
 ※5 エネルギー起源温室効果ガス: 燃料消費により発生した温室効果ガス
 ※6 非エネルギー起源温室効果ガス: 製造工程や廃棄物からの発生等、燃料消費以外で発生した温室効果ガス
 ※7 VOC (Volatile Organic Compounds): トルエン等の揮発性有機化合物の排出量
 ※8 COD (Chemical Oxygen Demand): 水質の汚濁状況を示す指標で、化学的酸素要求量または化学的酸素消費量
 ※9 SS (Suspended Solid): 水中に浮遊する物質
 ※10 輸送量には、公海上の輸送を含まない

[インプット/アウトプット明細](#) [137KB]

CSR

▶ [マテリアリティとCSR目標](#)

▼ 環境

▶ [環境への取り組み](#)

マテリアルバランス

▶ [環境マネジメント](#)

▶ [省エネルギー](#)

▶ [地球温暖化防止](#)

▶ [LCA](#)

▶ [省資源](#)

▶ [水資源](#)

▶ [化学物質管理](#)

▶ [生物多様性](#)

▶ [輸送量](#)

▶ [環境貢献活動](#)

▶ [環境会計、主要会社別環境データ](#)

▶ [人権・労働慣行](#)

▶ [公正な事業慣行](#)

▶ [消費者課題](#)

▶ [コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)

▶ [CSR調達基本方針](#)

▶ [企業倫理通報制度](#)

▶ [一般事業主行動計画](#)

▶ [CSR報告書 \(ダウンロード\)](#)

▶ [編集方針](#)

▶ [サイトマップ](#) ▶ [サイトご利用上の注意](#) ▶ [プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.


[ホーム](#) > [CSR](#) > [環境](#) > [環境マネジメント](#)

環境マネジメント

環境経営を推進する体制

日清紡グループは、「環境・エネルギーカンパニー」グループとして持続可能な社会の実現に向け、環境経営推進規定を制定し、日清紡ホールディングス（株）社長が最高責任者として環境経営を推進する体制を構築しています。

ISO14001認証取得拠点は、規格に従いPDCAサイクルを展開することで環境経営を推進しています。また、取得していない拠点も規格に準じたマネジメントシステムをそれぞれ構築し、活動しています。全子会社は毎年経営トップによるマネジメントレビューを実施しています。日清紡グループ全体の環境マネジメントレビューは、6月の当社経営戦略会議で実施し、必要に応じて最高責任者である社長の指示を受ける仕組みになっています。

ISO14001 2015年版対応と環境監査

環境マネジメントシステムの国際規格が2015年9月に改訂されました。監査員教育を行ったうえで内部監査を行い、国内外の拠点で順次移行を進めています。



当社本社事業所での監査員教育

環境マネジメントシステムの状況

日清紡グループは、行動指針に「環境マネジメントシステムを日清紡グループ全体に広め、省エネルギー・省資源、廃棄物の減量・リサイクルの推進、地球温暖化物質・環境汚染物質等の排出削減、生物多様性への配慮等により、地球環境の保全に努めます」という条項を掲げ環境マネジメントシステムの推進に積極的に取り組んでいます。

2017年3月末現在、ISO14001認証取得組織は56拠点となっています。一部の事業では事業運営とより一体化した環境活動を行うため認証の統合を進めています。

TMDグループは、すべての製造事業所とサービス部門の1か所で、ISO14001認証を取得しています。加えてエネルギーマネジメントシステムISO50001の認証も進めており、13拠点がこの認証を取得しました。

(認証取得組織の登録範囲に含まれる構内関連企業・事業所の記載は省略しています)

ISO14001認証登録組織 (2017年3月31日現在)

国内(25拠点)

CSR

[▶ マテリアリティとCSR目標](#)
[▼ 環境](#)
[▶ 環境への取り組み](#)
[▶ マテリアルバランス](#)
[環境マネジメント](#)
[▶ 省エネルギー](#)
[▶ 地球温暖化防止](#)
[▶ LCA](#)
[▶ 省資源](#)
[▶ 水資源](#)
[▶ 化学物質管理](#)
[▶ 生物多様性](#)
[▶ 輸送量](#)
[▶ 環境貢献活動](#)
[▶ 環境会計、主要会社別環境データ](#)
[▶ 人権・労働慣行](#)
[▶ 公正な事業慣行](#)
[▶ 消費者課題](#)
[▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)
[▶ CSR調達基本方針](#)
[▶ 企業倫理通報制度](#)
[▶ 一般事業主行動計画](#)
[▶ CSR報告書 \(ダウンロード\)](#)

日清紡ホールディングス (株)		(東京都中央区)
日清紡ホールディングス (株)	中央研究所	(千葉県千葉市)
日本無線 (株)	(統合認証)	(東京都三鷹市)
長野日本無線 (株)	(統合認証)	(長野県長野市)
上田日本無線 (株)	本社工場 (統合認証)	(長野県上田市)
ジェイ・アール・シー特機 (株)		(神奈川県横浜市)
日本無線硝子 (株)		(埼玉県ふじみ野市)
新日本無線 (株)		(東京都中央区)
佐賀エレクトロニクス (株)	佐賀製作所	(佐賀県神埼郡)
(株) エヌ・ジェイ・アール福岡		(福岡県福岡市)
日清紡ブレーキ (株)	本社 (統合認証)	(東京都中央区)
日清紡メカトロニクス (株)	美合工機事業所	(愛知県岡崎市)
日清紡メカトロニクス (株)	浜北精機事業所	(静岡県浜松市)
日清紡精機広島 (株)		(広島県東広島市)
南部化成 (株)	(統合認証)	(静岡県榛原郡)
(株) エクセル東海		(静岡県御殿場市)
日清紡ケミカル (株)	旭事業所	(千葉県旭市)
日清紡ケミカル (株)	千葉事業所	(千葉県千葉市)
(株) 日新環境調査センター		(東京都足立区)
日清紡テキスタイル (株)	大阪支社	(大阪府大阪市)
日清紡テキスタイル (株)	吉野川事業所	(徳島県吉野川市)
日清紡ペーパー プロダクツ (株) ※	島田事業所	(静岡県島田市)
日清紡ペーパー プロダクツ (株) ※	徳島事業所	(徳島県徳島市)
日清紡ペーパー プロダクツ (株) ※	富士事業所	(静岡県富士市)
東海製紙工業 (株) ※		(静岡県富士市)

※ 日清紡ペーパー プロダクツ3事業所および東海製紙工業は、2017年4月3日に大王製紙株式会社に譲渡しました。

海外(31拠点)

深圳恩佳升科技有限公司	(中国)
THAI NJR CO., LTD.	(タイ)
TMD/ Leverkusen※	(ドイツ)
TMD/ Essen※	(ドイツ)

▶ 編集方針

TMD/ Coswig*	(ドイツ)
TMD/ Hamm*	(ドイツ)
TMD/ Leverkusen (Services)*	(ドイツ)
TMD/ Hartlepool*	(英国)
TMD/K ilmarnock*	(英国)
TMD/ Creutzwald*	(フランス)
TMD/ Valencia*	(スペイン)
TMD/ Caransebes*	(ルーマニア)
TMD/ Merrivale	(南アフリカ)
TMD/ Querétaro*	(メキシコ)
TMD/ Indaiatuba	(ブラジル)
TMD/ Shijiazhuang*	(中国)
TMD/ Hangzhou*	(中国)
Nisshinbo Automotive Manufacturing Inc.	(米国)
Nisshinbo Somboon Automotive Co., Ltd.	(タイ)
Nisshinbo Commercial Vehicle Brake Ltd.	(タイ)
Saeron Automotive Corporation	(韓国)
賽龍（北京）汽車部件有限公司	(中国)
日清紡賽龍（常熟）汽車部件有限公司	(中国)
日清紡精密機器（上海）有限公司	(中国)
Nisshinbo Mechatronics (Thailand) Ltd.	(タイ)
日清紡大陸精密機械（揚州）有限公司	(中国)
広州南部工程塑料有限公司	(中国)
Nanbu Philippines Incorporated	(フィリピン)
Toms Manufacturing Corporation	(フィリピン)
PT. Nanbu Plastics Indonesia	(インドネシア)
PT. Standard Indonesia Industry	(インドネシア)

※エネルギーマネジメントシステム (ISO50001) 認証も取得

[▶ サイトマップ](#)
[▶ サイトご利用上の注意](#)
[▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > 環境 > 省エネルギー

省エネルギー

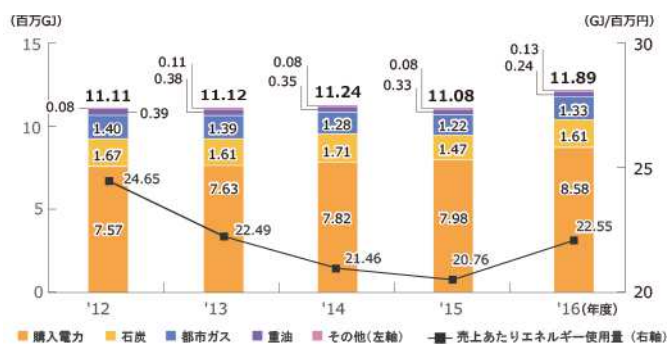
燃料別エネルギー使用量

日清紡グループのエネルギー使用量は11.89百万GJ（ギガジュール）と前年度比7%増加しました。売上あたりの使用エネルギーに換算すると22.55GJ/百万円となり、前年度比9%増加しました。

主要因は南部化成（株）が新たにグループに加わり、エネルギー使用量が増えたことです。

種類別の内訳では、使用エネルギー全体の72%が購入電力でした。また、使用エネルギー全体の14%が繊維事業のインドネシア子会社2社（PT. Nisshinbo IndonesiaおよびPT. Nikawa Textile Industry）で使用している石炭によるものでした。

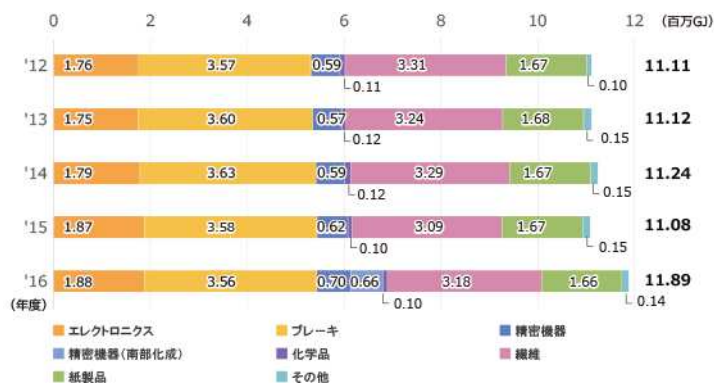
エネルギー使用量と売上あたりのエネルギー使用量の推移



事業別エネルギー使用量

エネルギーを最も多く使用したのはプレーキ事業です。エネルギーの使用量が増加した主要因は、南部化成（株）がグループに加わったためです。

事業別エネルギー使用量



CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

▼ 環境

▶ 環境への取り組み

▶ マテリアルバランス

▶ 環境マネジメント

省エネルギー

▶ 地球温暖化防止

▶ LCA

▶ 省資源

▶ 水資源

▶ 化学物質管理

▶ 生物多様性

▶ 輸送量

▶ 環境貢献活動

▶ 環境会計、主要会社別環境データ

▶ 人権・労働慣行

▶ 公正な事業慣行

▶ 消費者課題

▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書（ダウンロード）

LED照明の導入加速

▶ 編集方針

2016年度1年間の新たなLED化の省エネ効果は、日清紡グループ全体で下表の通り3,595MWhとなりました。

電力削減量

事業区分	削減量 (MWh)
エレクトロニクス事業	416
ブレーキ事業	1,551
精密機器事業	685
化学品事業	4
繊維事業	314
紙製品事業	92
その他 (植物工場他)	533
合計	3,595

植物工場にLED照明を導入

日清紡ホールディングス(株) 徳島事業所および藤枝事業所は、完全人工光型植物工場※で、いちごの栽培を行っています。栽培用の照明として、従来は蛍光灯を使用していましたが、2016年度にLED照明への交換を開始し、省電力化を図りました。照明電力は植物工場で使用する電力の約60%を占めており、2017年度の削減効果は2,180MWh/年に及ぶ予定です。今後、電力デマンドの低減も期待されます。

※完全人工光型植物工場：閉鎖された空間で、人工光により植物を生産するシステム



蛍光灯



LED

集塵システムの省エネ化

タイのNisshinbo Somboon Automotive Co., Ltd. (NSA) は、原料の計量・予備成型・研磨・検査などの工程内で発生する粉塵を作業者に吸引させないため、集塵機を4台使用しています。

集塵機には一般の掃除機と同じようにフィルターがあり、定期的にクリーニングをしなければなりません。従来、フィルターの汚れ具合に関係なく一定時間ごとに自動クリーニングを行っていましたが、昨年フィルターに差圧計を取りつけ一定の詰まり具合になったらクリーニングする制御方式に改造しました。これによ



りクリーニング回数が低減し、電力消費は約
485MWh/年の削減となる見込みです。

集塵機

環境配慮製品の設計推進

長野日本無線（株）は、「持続可能な社会に貢献する製品」の展開を目標に掲げ、環境配慮製品の設計と拡販を推進しています。

ODM製品※1を中心に、RoHS※2対応部品の選定、低消費電力化、小型化を図っています。例えば、家庭用電気メータ等の検針用無線機の設計において、無線機のリチウム電池交換というメンテナンス作業頻度の低減のために動作時間10年の目標を立て、間欠動作機能や低消費電力設計によりこれを実現しました。

※1 ODM製品（Original Design Manufacturing）：取引先のブランド名で販売されるが、自社で開発・設計・生産する製品

※2 RoHS（Restriction of Hazardous Substances）：電子・電気機器における、特定有害物質の使用制限についての欧州連合（EU）による指令

[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > 環境 > 地球温暖化防止

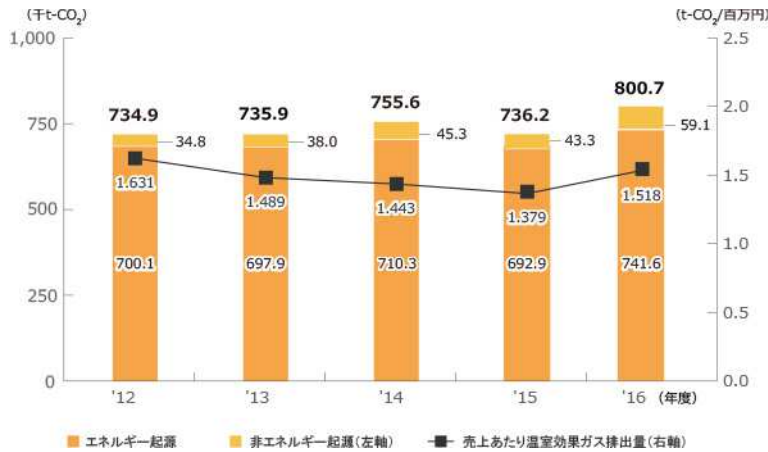
地球温暖化防止

温室効果ガスの排出量

日清紡グループの温室効果ガス排出量は南部化成（株）が新たにグループに加わったことなどにより、800.7千トン-CO₂と前年度比9%増加しました。売上あたり温室効果ガス排出量は、前年度比10%増加しました。

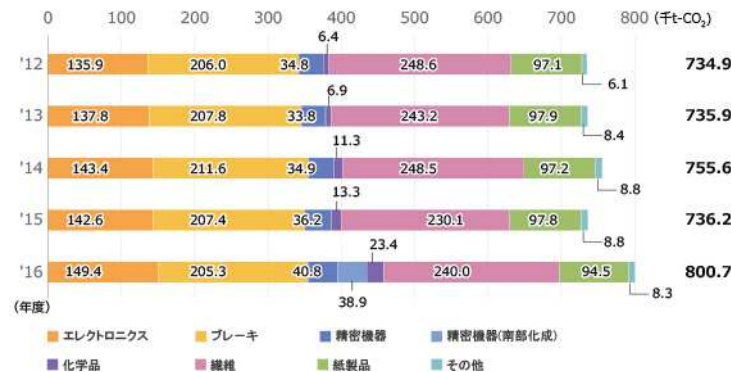
非エネルギー起源の温室効果ガスのうち61%をPFC（パーフルオロカーボン）が占めました。これは主として新日本無線（株）の電子デバイス製品製造工程から排出されたものです。

温室効果ガスの排出量と売上あたり温室効果ガス排出量の推移



事業別では、繊維事業が温室効果ガス排出量全体の30%を占めました。ブレーキ事業は26%を占めます。また化学品事業ではLNG運搬船向の断熱材の生産が本格化し、前年度比76%増加しました。

事業別温室効果ガス排出量



温室効果ガス排出量に占める国内の割合は44%でした。

CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

▼ 環境

▶ 環境への取り組み

▶ マテリアルバランス

▶ 環境マネジメント

▶ 省エネルギー

地球温暖化防止

▶ LCA

▶ 省資源

▶ 水資源

▶ 化学物質管理

▶ 生物多様性

▶ 輸送量

▶ 環境貢献活動

▶ 環境会計、主要会社別環境データ

▶ 人権・労働慣行

▶ 公正な事業慣行

▶ 消費者課題

▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

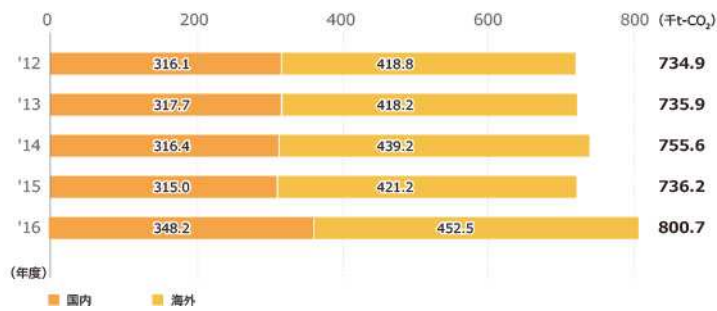
▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書（ダウンロード）

国内／海外温室効果ガス排出量



編集方針

<注記>

温室効果ガス排出量の集計にあたっては、環境省が発行している、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」に準じた二酸化炭素排出換算係数を使用しています。また、石炭は生産者より提供された係数を使用しています。

二酸化炭素排出量算出に用いた換算係数

電力	0.587 t-CO ₂ /MWh	ガソリン	2.322 t-CO ₂ /KL
石炭	1.890 t-CO ₂ /t	軽油	2.585 t-CO ₂ /KL
A重油	2.710 t-CO ₂ /KL	都市ガス	2.234 t-CO ₂ /Kcal

オートバイ通勤 二酸化炭素、一酸化炭素の削減

Nisshinbo Mechatronics (Thailand) Ltd.は、社員1,350名中、約260名がオートバイで通勤しています。今般、政府の呼びかけに対応し、社員がオートバイを運転する際には、ヘルメットを必ず着用するよう改めて指導しました。また、安全のため会社の入り口でオートバイのエンジンを停止することをルール化したことにより、二酸化炭素と一酸化炭素の削減にもつながりました。

こうした取り組みが安全と環境に貢献したとして地元県知事から表彰されました。受賞企業は、サムットプラカーン県で6,652社中55社、バンブリー工業団地では120社中2社のみでした。



オートバイを押して入場



表彰状

エコカー向け部品受注の拡大

南部化成(株)は日清紡メカトロニクス(株)の子会社で、自動車・医療・住宅など幅広い分野向けのさまざまなプラスチック製品を取り扱っています。ハイブリッドカーが市場に出始めたころから、国内自動車関連メーカーよりコネクタ部品、バッテリー関連部品、ヘッドライト部品、内装部品などを継続受注しています。プラスチック製品の高強度、高精度、軽量化を実現する同社の技術が高く評価され、海外生産品も含めて順調に生産量が増加しています。



自動車向けプラスチック製品

再生エネルギーの導入

日清紡グループで導入した太陽光発電設備は、2016年度を通して安定的に稼働し、5.16千MWhの発電をしました。

2016年度末事業所別発電設備容量

設置事業所	設備容量 (kW)	稼働年	用途
日清紡メカトロニクス (株) 美合工機事業所	430	2010	自家消費
日清紡ペーパープロダクツ (株) 島田事業所	250	2010	自家消費
日清紡ケミカル (株) 千葉事業所	150	2011	売電 自家消費
日清紡ブレーキ (株) 館林事業所	300	2011	自家消費
長野日本無線 (株) 本社工場	110	2013	売電
日清紡ホールディングス (株) 徳島事業所 日清紡ペーパー プロダクツ (株) 徳島事業所	1,768	2013	売電 試験
日清紡精機広島 (株)	1,020	2015	売電
合計	4,028		

[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.


[ホーム](#) > [CSR](#) > [環境](#) > [LCA](#)

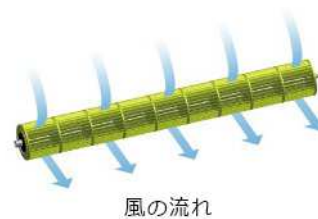
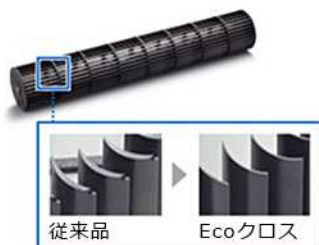
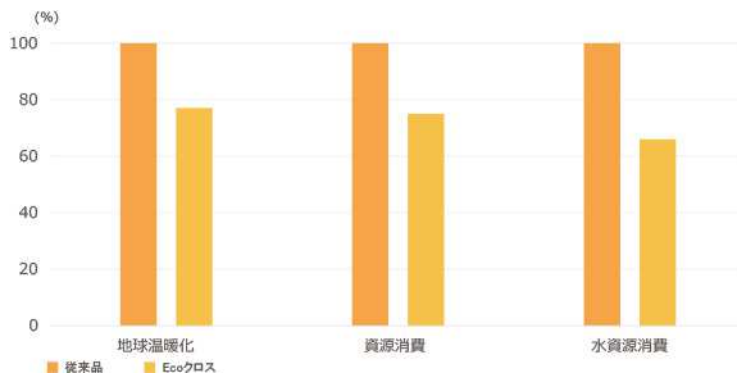
LCA

LCA（ライフサイクルアセスメント）とは、原材料の調達から、生産、流通、使用、廃棄に至る製品のすべてのライフサイクルにおける投入資源、環境負荷およびそれらによる地球や生態系への潜在的な環境影響を定量的に評価する手法です。日清紡グループでは、環境負荷の把握と低減を図るため、LCAデータを算出して製品企画や製造工程の改善に活用しています。

Ecoクロス

日清紡メカトロニクス（株）は、羽根肉厚を極限まで薄くし、総重量を軽くした環境影響が少ない家庭用エアコン向けクロスフローファン（商品名 Ecoクロス）を開発、販売しています。このたび、（社）産業環境管理協会のLCAソフトウェア「MiLCA」による環境影響評価（「地球温暖化」「資源消費」「水資源消費」）を実施しました。解析の結果、Ecoクロスは当社従来品に比べ地球温暖化、資源消費では約2割強、水資源消費では約3割強の負荷低減効果が確認できました。

影響評価指数



CSR

[▶ マテリアリティとCSR目標](#)

▼ 環境

[▶ 環境への取り組み](#)
[▶ マテリアルバランス](#)
[▶ 環境マネジメント](#)
[▶ 省エネルギー](#)
[▶ 地球温暖化防止](#)

LCA

[▶ 省資源](#)
[▶ 水資源](#)
[▶ 化学物質管理](#)
[▶ 生物多様性](#)
[▶ 輸送量](#)
[▶ 環境貢献活動](#)
[▶ 環境会計、主要会社別環境データ](#)
[▶ 人権・労働慣行](#)
[▶ 公正な事業慣行](#)
[▶ 消費者課題](#)
[▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)
[▶ CSR調達基本方針](#)
[▶ 企業倫理通報制度](#)
[▶ 一般事業主行動計画](#)
[▶ CSR報告書（ダウンロード）](#)

▶ [編集方針](#)

▶ [サイトマップ](#) ▶ [サイトご利用上の注意](#) ▶ [プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > 環境 > 省資源

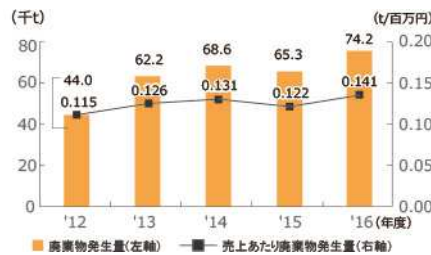
省資源

廃棄物発生量

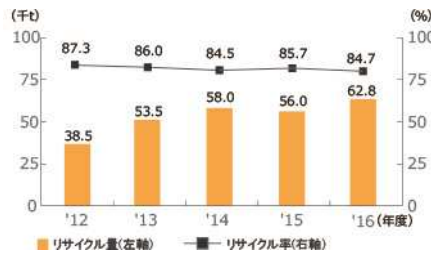
日清紡グループの廃棄物発生量は74.2千トンで前年度比14%増加しました。売上あたり廃棄物発生量は16%増加しました。主要因はTMDドイツ地区での廃棄物発生量の増加、および新たに南部化成（株）が加わり廃棄物発生量が増えたことです。

リサイクル率は、昨年度より1.0%悪化しました。

廃棄物発生量と売上あたり廃棄物発生量の推移



リサイクル量とリサイクル率の推移



ゼロエミッション

グループ全体でゼロエミッション（リサイクル率99%以上）活動を展開しています。廃棄物発生量が年間10トン以上ある拠点のうち18拠点でゼロエミッションを達成しました。

ゼロエミッション達成拠点

- 日清紡ホールディングス（株） 中央研究所
- 日清紡ホールディングス（株） 徳島出張所
- 長野日本無線（株）
- 上田日本無線（株）
- ジェイ・アール・シー特機（株）
- 新日本無線（株）
- （株）エヌ・ジェイ・アール福岡
- 日清紡ブレーキ（株） 館林事業所
- 日清紡ブレーキ（株） 豊田事業所
- PT. Standard Indonesia Industry
- 日清紡ケミカル（株） 千葉事業所
- 日清紡ケミカル（株） 徳島事業所
- 日清紡ケミカル（株） 土気事業所
- 日清紡テキスタイル（株） 徳島事業所
- Nisshinbo Do Brasil Industria Textil LTDA
- PT. Naigai Shirts Indonesia
- 日清紡ペーパー プロダクツ（株） 徳島事業所
- 日清紡ペーパー プロダクツ（株） 富士事業所

事業別廃棄物発生量と事業別リサイクル率の推移

日清紡グループは、2025年度にリサイクル率95%を達成するとの目標を設定して、事業ごとに廃棄物削減活動に取り組んでいます。

CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

▼ 環境

▶ 環境への取り組み

▶ マテリアルバランス

▶ 環境マネジメント

▶ 省エネルギー

▶ 地球温暖化防止

▶ LCA

省資源

▶ 水資源

▶ 化学物質管理

▶ 生物多様性

▶ 輸送量

▶ 環境貢献活動

▶ 環境会計、主要会社別環境データ

▶ 人権・労働慣行

▶ 公正な事業慣行

▶ 消費者課題

▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

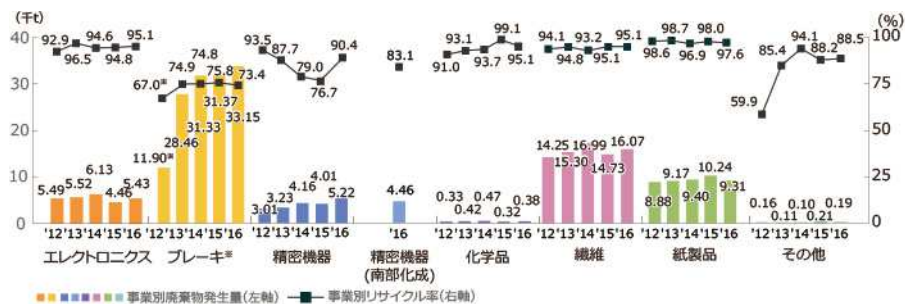
▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書（ダウンロード）

事業別廃棄物発生量と事業別リサイクル率の推移



編集方針

※TMDは含まれていません

- ▶ サイトマップ
- ▶ サイトご利用上の注意
- ▶ プライバシーポリシー

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

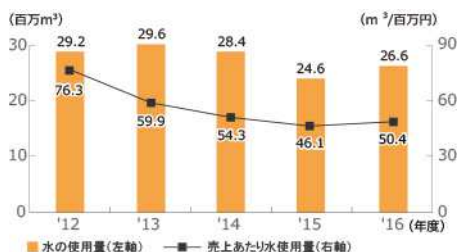
ホーム > CSR > 環境 > 水資源

水資源

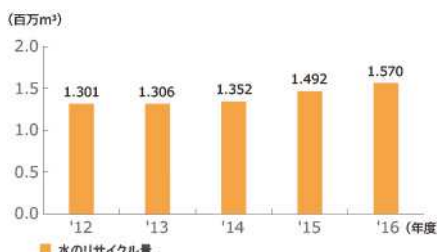
水資源の使用量

水資源の効率的利用を進めてきましたが、水の使用量は26.6百万m³となり、前年度比8%増加しました。売上あたりの水使用量は前年度比9%増加しています。水のリサイクル量は、前年度比5%増加しました。これは、南部化成(株) 大井川事業所でのリサイクル量0.13百万m³が加わったことによります。

水使用量と売上あたり水使用量

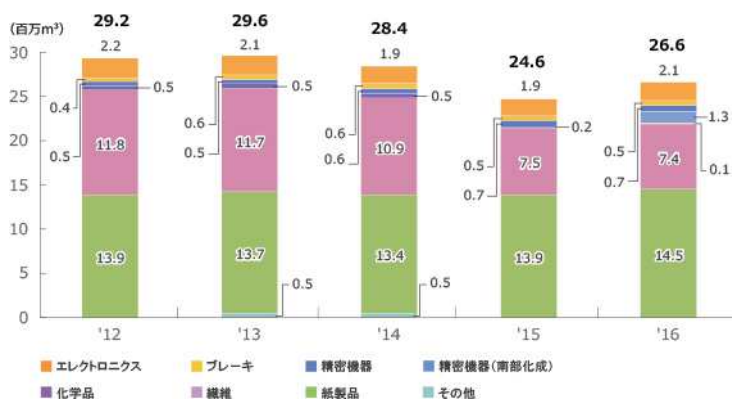


水リサイクル量の推移



事業別の水使用量では、紙製品事業が全体の55%を占めました。繊維事業は減少傾向ですが、全体の28%を占めています。この2つの事業で全体の82%の水資源を使用しています。

事業別水使用量の推移



排水の有効利用

エヌ・ジェイ・アール福岡

(株) エヌ・ジェイ・アール福岡は、排水リユースシステムを導入しています。排水リユースシステムは、工場からの排水の一部を抜き取り、砂ろ過塔、フィルター、RO膜ユニットで処理することにより排水中の不純物を除去しています。処理水は、主に冷却塔の散布水のために使用しています。

このシステムにより、約7,000m³/月の排水を再利用しています。

CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

▼ 環境

▶ 環境への取り組み

▶ マテリアルバランス

▶ 環境マネジメント

▶ 省エネルギー

▶ 地球温暖化防止

▶ LCA

▶ 省資源

水資源

▶ 化学物質管理

▶ 生物多様性

▶ 輸送量

▶ 環境貢献活動

▶ 環境会計、主要会社別環境データ

▶ 人権・労働慣行

▶ 公正な事業慣行

▶ 消費者課題

▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書 (ダウンロード)

編集方針



下水放流槽



砂ろ過塔



フィルター



RO膜[※]ユニット



冷却塔

※RO (Reverse Osmosis membrane) 膜：逆浸透膜

THAI NJR

THAI NJR CO., LTD.は、工業団地より供給された原水から純水を製造し、半導体組立工程で使用しています。同社では純水製造工程で発生する排水を構内緑地やサッカーグラウンドの散布水として再利用しています。再利用する水は、水消費量全体の2~4%に相当します。



純水製造設備



緑地用再利用水ポンプ

干ばつ対策用井戸の設置

米国のNisshinbo Automotive Manufacturing Inc. (NAMI) は、敷地内に取水量76リットル/分の井戸を建設しました。

この井戸により年間54,000ドルの経費削減が見込まれるほか、干ばつ警報が発令された際にも用途の制限なく水の使用が可能になりました。

また、屋上空調ユニットから出る結露水を湿式スクラパーの洗浄水として使用し、男性トイレには水を使用しない消臭型の小便器を設置するなど節水に取り組んでいます。



新設した井戸

[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > 環境 > 化学物質管理

化学物質管理

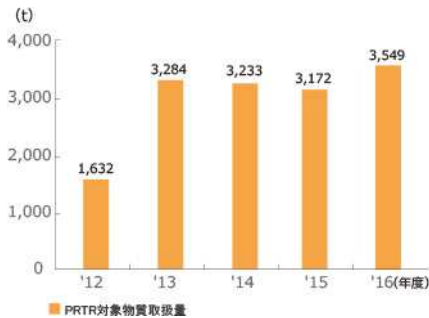
化学物質の取扱量

PRTR対象物質※取扱量全体では、3,549トンと前年度比12%増加しました。これは、化学品事業でLNG運搬船向の断熱材の生産が本格化したことによります。

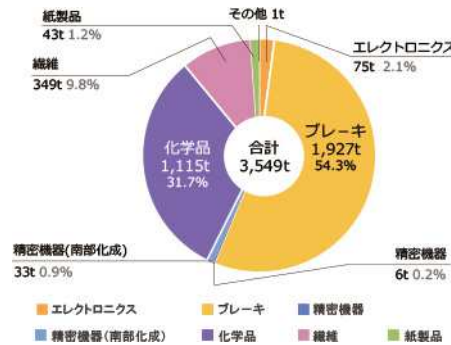
PRTR対象物質取扱量のうち主要な物質は、ブレーキ原料のアンチモン（960トン）とクロム（461トン）、ウレタンの主原料であるメチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート（910トン）です。

※PRTR（Pollutant Release and Transfer Register）対象物質：「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」に基づく制度の対象物質で、排出量・移動量の届出を義務付けられている物質

PRTR対象物質取扱量の推移



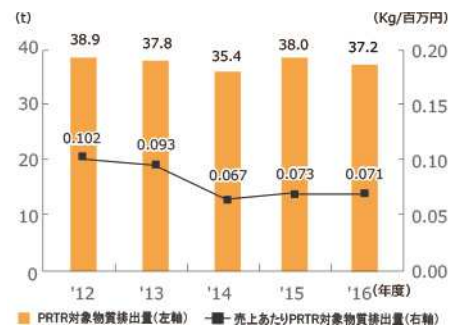
事業別PRTR対象物質取扱量



化学物質の排出量

日清紡グループのPRTR対象物質の環境への排出量は、37.2トンと前年度比2%減少しました。売上あたり排出量では、前年度比3%減少しました。

PRTR対象物質排出量と売上あたりPRTR対象物質排出量の推移



化学物質別の排出内訳

物質名	排出量(t)	比率
トルエン	15.5	41.6%
エチルベンゼン	7.0	18.7%
キシレン	5.6	15.1%
ジクロロメタン	2.0	5.4%
ヘキサメチレンテトラミン	1.7	4.7%
フェノール	1.6	4.3%
アンチモン	1.6	4.2%
その他	2.2	6.0%

物質別の排出量では、トルエンが最も多く42%を占めています。

CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

▼ 環境

▶ 環境への取り組み

▶ マテリアルバランス

▶ 環境マネジメント

▶ 省エネルギー

▶ 地球温暖化防止

▶ LCA

▶ 省資源

▶ 水資源

化学物質管理

▶ 生物多様性

▶ 輸送量

▶ 環境貢献活動

▶ 環境会計、主要会社別環境データ

▶ 人権・労働慣行

▶ 公正な事業慣行

▶ 消費者課題

▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

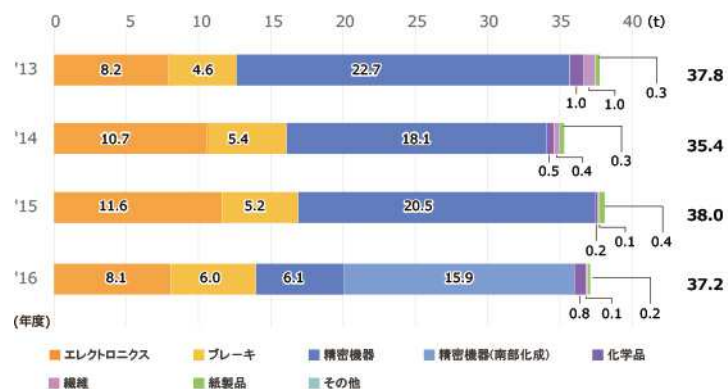
▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書（ダウンロード）

事業別内訳では、トルエン、エチルベンゼン、キシレンを多量に排出している精密機器事業（南部化成（株）を含む）の比率が59%となりましたが、同事業ではジクロロメタンの代替が進み、排出量が16.3トンから2.0トンへ減少しました。

編集方針

事業別PRTR対象物質排出量

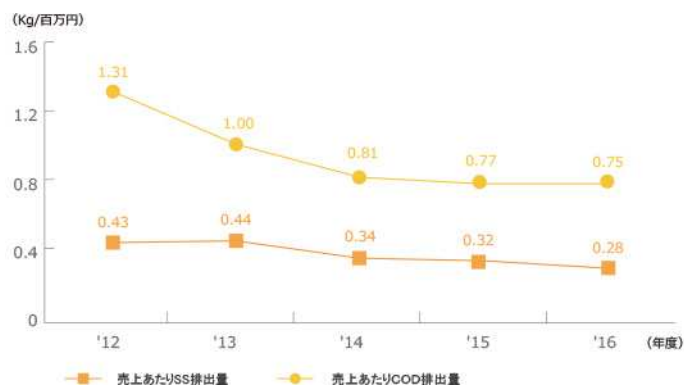


排水の浄化

日清紡グループの売上あたりのSS（水中の浮遊物質）排出量は、前年度比13%削減しました。

また、売上あたりのCOD*排出量は前年度比 3%削減しました。

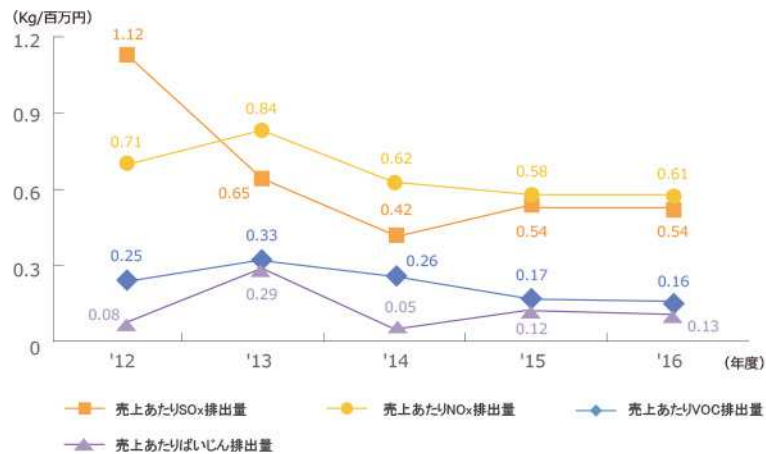
※COD（Chemical Oxygen Demand）：水質の汚濁状況を示す指標で、化学的酸素要求量または化学的酸素消費量



大気への排出

日清紡グループの売上あたりのSOx（硫酸酸化物）排出量は、前年度比ほぼ同等でした。

売上あたりのNOx（窒素酸化物排出量）は5%増加し、同VOC*排出量は6%減少しました。また、同ばいじん排出量は8%増加しました。



※VOC (Volatile Organic Compounds) : トルエン等の揮発性有機化合物

グリーンパッド（摩擦材）の開発

日清紡ブレーキ（株）は、従来より摩擦材製品に含まれる環境負荷物質の削減に取り組み、数々の製品を市場に送り出してきました。

近年、米国サンフランシスコ湾の銅汚染の主要原因が自動車ブレーキの摩擦材に含まれる銅にあると判断され、一部の州で銅使用量の規制を導入することが決定されました。日清紡ブレーキは、銅の含有量を0.5%未満に抑えた摩擦材の確立に注力し、2016年に国内および北米で市場投入を開始しました。

塗料の粉体塗装化

日清紡ブレーキ（株）館林事業所は、製品の塗装に有機溶剤系塗料を使用しています。有機溶剤は乾燥時大気に放出されるため、以前より有機溶剤を含まない粉体塗装への置換えを順次進めており、2016年度は有機溶剤系塗料を約2トン/年削減できました。それに伴い、設備への塗料の付着を防ぐために使用していた水2,000m³/年も不要となりました。

塗料の脱溶剤化

日清紡ケミカル（株）は、低毒性・耐熱性・化学反応性・接着性を持つ高機能性樹脂製品、カルボジライトを開発・製造・販売しています。カルボジライトは、プラスチックなどに添加することにより、材料の高性能化を実現することができます。

例えば、有機溶剤系塗料に比べ、塗膜性能が劣るといわれている水性塗料に添加することで塗膜性能を向上できることから、塗料の脱溶剤化に貢献しています。

▶ サイトマップ ▶ サイトご利用上の注意 ▶ プライバシーポリシー

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > 環境 > 生物多様性

生物多様性

生物多様性民間参画パートナーシップに参加

日清紡ホールディングス（株）は、経済団体、事業者、NGO、自治体などから構成される生物多様性民間参画パートナーシップに参加し、生物多様性の保護活動に取り組んでいます。

第2期中期環境目標では、調査、教育、啓蒙が活動の中心でしたが、2015年度からの第3期中期環境目標では、事業ごとに1件以上の生態系保全先行推進モデル事業を設定し、具体的な生物多様性の保全に取り組んでいます。

生態系保全先行推進モデル事業

会社・事業所	関連する愛知目標※ 活動内容 保護生物等
日本無線（株）	目標：水産資源の保全 活動：東京海洋大学と連携し、東京湾の水産資源の保全活動の基礎データ収集 保護生物等：漁業者の視点に立ったマアナゴの生息調査  データ収集装置装着のマアナゴ漁船
長野日本無線（株） 本社工場	目標：自然生息地の保全 活動：事業所近くの森林「長野日本無線の森（長野市松代町、0.4ha）」への植樹・保全 保護生物等：カラマツ林によって育まれる生態系または固有種（保護生物等は未特定）  植樹・保全活動
新日本無線（株） 本社および川越製作所 日本無線硝子（株） 本社工場	目標：重要な生態系（ホットスポットや干潟等）の保全 活動：事業所（埼玉県ふじみ野市）近くの新河岸川の水辺環境の保全 保護生物等：新河岸川周辺の動植物（保護生物等は未特定）  水辺環境保全活動
日清紡ブレーキ（株） 館林事業所	目標：絶滅危惧種の保全 活動：群馬県邑楽郡邑楽町中野沼西沼の保全活動 保護生物等：キンブナ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）等  絶滅危惧種保全活動

CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

▼ 環境

▶ 環境への取り組み

▶ マテリアルバランス

▶ 環境マネジメント

▶ 省エネルギー

▶ 地球温暖化防止

▶ LCA

▶ 省資源

▶ 水資源

▶ 化学物質管理

▶ 生物多様性

▶ 輸送量

▶ 環境貢献活動

▶ 環境会計、主要会社別環境データ

▶ 人権・労働慣行

▶ 公正な事業慣行

▶ 消費者課題

▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書（ダウンロード）

<p>日清紡プレーキ（株） 豊田事業所</p>	<p>目標：自然生息地の保全 活動：西広瀬・丸根山ビオトープの整備と維持管理 保護生物等：ムササビ・オオムラサキ・キキョウ等の保護種に関する生態系保全</p>	 <p>丸根山ビオトープ</p>	<p>▶ 編集方針</p>
<p>日清紡メカトロニクス（株） 美合工機事業所</p>	<p>目標：重要な生態系（ホットスポットや干潟等）の保全 活動：敷地内の増田公園にトンボ類の生息環境創出 保護生物等：トンボ（アジアイトトンボ、ギンヤンマ等の飛来・繁殖を期待）</p>	 <p>新設したトンボ池</p>	
<p>日清紡ホールディングス（株） 中央研究所 日清紡ケミカル（株） 土気事業所</p>	<p>目標：絶滅危惧種の保全 活動：周辺山林（千葉市緑区大野台）に自生している貴重な植物の調査・保護・増殖 保護生物等：キンラン（環境省：絶滅危惧Ⅱ類、ラン科キンラン属の多年草）</p>	 <p>キンラン</p>	
<p>日清紡テキスタイル（株） 藤枝事業所</p>	<p>目標：絶滅危惧種の保全 活動：事業所内の池の水質保全 保護生物等：ミナミメダカ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）</p>	 <p>ミナミメダカ保護池</p>	
<p>日清紡テキスタイル（株）他3社 徳島事業所</p>	<p>目標：絶滅危惧種の保全 活動：徳島県から譲渡される魚の稚魚を防火水槽で増殖し、数年後には河川放流 保護生物等：カワバタモロコ（徳島県：絶滅危惧ⅠA類、環境省：絶滅危惧ⅠB類）</p>	 <p>カワバタモロコ</p>	

※ 愛知目標：2010年に愛知県で開催された生物多様性条約締約国会議で決定された2020年までの目標

全国植樹祭県民植樹への参加

上田日本無線（株）は、2016年6月の全国植樹祭にあわせて行われた県民植樹に、社員および家族18名が参加しました。上田会場（下之郷自然運動公園）では、みどりの少年団、林業関係者、近隣の一般住民など約1000人が参加し、郷土種のコナラやクスギなど4500本を植樹しました。

また、昨年より同社が預かり育てていた苗木50本も無事植樹でき、自然や森林をより身近に感じる体験となりました。今後も恒例イベントとして、地域の植樹祭には積極的に参加していく予定です。



参加者



植樹作業

外来生物「メカルファ」の駆除

韓国のSaeron Automotive Corporation (SAC) は、近隣の山林と農園などに生息している外来生物のメカルファの駆除活動を2016年から行っています。

メカルファは仙女虫という美しい別名に似合わず、旺盛な繁殖力を持ち、粘度の高い物質を吐き出して農作物の表面を覆い、農家に大規模な被害を与えています。

同社ではこのような外来生物による被害を最小化するため、7月から8月にかけて計500㎡にわたるエリアを対象に、社員が外部の防疫業者とともに駆除を実施しています。

新工場の植樹活動

TMD Friction do Brasil S.A.は、サンパウロ州サルト市に新工場を建設しました。その記念にTMDと日清紡ブレーキ(株)の幹部などをゲストとして招待し、樹木のサポーターになってもらうイベントを開催しました。樹木の脇には植樹者名を記載したボードを立てました。緑がふえて工場が見違えるようになりました。



記念植樹

[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

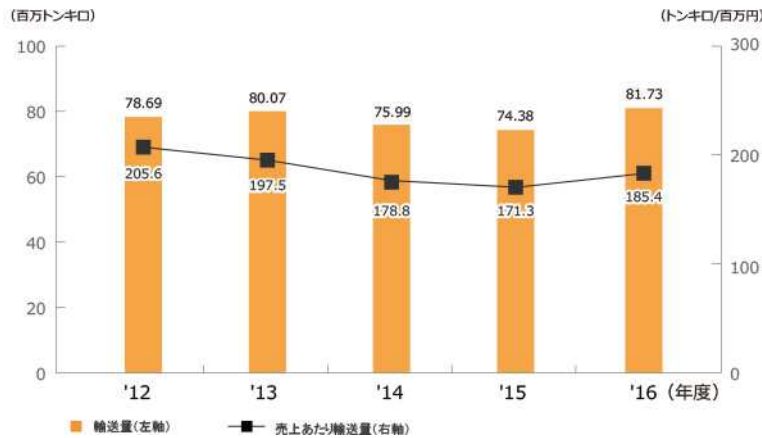
Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > 環境 > 輸送量

輸送量

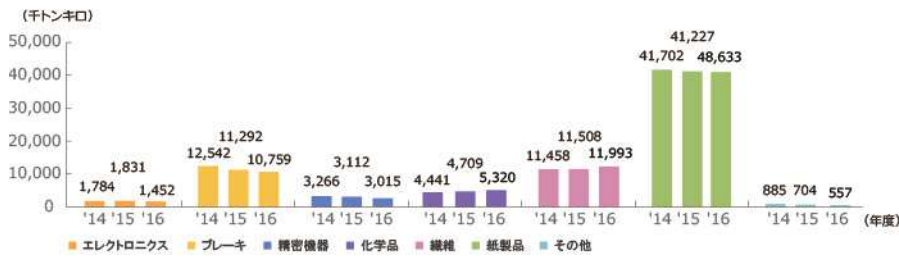
日清紡グループの貨物輸送量は、前年度比10%増加しました。売上あたり輸送量では8%増加となりました。

輸送量と売上あたり輸送量の推移



事業別では、紙製品事業が全体の輸送量の60%を占めていました。なお、2017年度は当事業の譲渡により、輸送量は大幅に減少します。

事業別輸送量の推移



3PLの本格活用

東京シャツ（株）は、物流業務を大手物流業者に一括して受託させる3PL※の活用を本格化しました。同社と大手物流業者とのシステム統合により、受入・出荷・在庫の把握が迅速化されました。

あわせて、誤配達的大幅削減（前年度1.9%→0.8%）や配送の効率化によって環境負荷の軽減を実現しました。

※ 3PL（サードパーティロジスティクス）：荷主以外の企業が、荷主に対して商品の受発注、在庫管理、情報化まで包括的な物流改革を提案し、一括して物流業務を受託する事業

CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

▼ 環境

▶ 環境への取り組み

▶ マテリアルバランス

▶ 環境マネジメント

▶ 省エネルギー

▶ 地球温暖化防止

▶ LCA

▶ 省資源

▶ 水資源

▶ 化学物質管理

▶ 生物多様性

輸送量

▶ 環境貢献活動

▶ 環境会計、主要会社別環境データ

▶ 人権・労働慣行

▶ 公正な事業慣行

▶ 消費者課題

▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書（ダウンロード）

▶ [編集方針](#)

▶ [サイトマップ](#) ▶ [サイトご利用上の注意](#) ▶ [プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.


[ホーム](#) > [CSR](#) > [環境](#) > [環境貢献活動](#)

環境貢献活動

アスベスト飛散抑制の共同研究

(株)日新環境調査センターは、環境・アスベスト・土壌の調査、分析などを手がけています。

現在、大手ゼネコンおよび日本大学と行っている「アスベスト除去作業における飛散抑制剤の効果についての検証」の共同研究において、同社はアスベストの飛散状況のデータ分析を担当しています。今後もこの共同研究を通じて、都市再開発に伴う建物解体作業の環境改善に貢献していきます。

野菜農園

TMD Friction do Brasil S.A.は、地元サンパウロ州イ نداイアツーパー市の小学校と提携して野菜農園を運営しています。

この農園で6年生と7年生（12～14歳）の生徒たちが野菜作りを楽しみながら、野菜を採る食事の重要性や無農薬で野菜を育てる方法、リサイクル材の活用について学んでいます。



野菜農園

今後もこうした活動を通じて、地域社会との関係の維持、向上に取り組んでいきます。

CSR

- ▶ マテリアリティとCSR目標

▼ 環境

- ▶ 環境への取り組み

- ▶ マテリアルバランス

- ▶ 環境マネジメント

- ▶ 省エネルギー

- ▶ 地球温暖化防止

- ▶ LCA

- ▶ 省資源

- ▶ 水資源

- ▶ 化学物質管理

- ▶ 生物多様性

- ▶ 輸送量

環境貢献活動

- ▶ 環境会計、主要会社別環境データ

- ▶ 人権・労働慣行

- ▶ 公正な事業慣行

- ▶ 消費者課題

- ▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

- ▶ CSR調達基本方針

- ▶ 企業倫理通報制度

- ▶ 一般事業主行動計画

- ▶ CSR報告書（ダウンロード）

▶ [編集方針](#)

▶ [サイトマップ](#) ▶ [サイトご利用上の注意](#) ▶ [プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > 人権・労働慣行

人権・労働慣行

基本姿勢

企業の恒久的な繁栄の鍵となるのが社員一人ひとりの力です。社員の人格を尊重し、適材適所の人財配置により、社員にとってより働きやすい職場を目指しています。

そのために、人権・雇用などあらゆる面で多様性を尊重し、ワークライフバランスの推進に取り組んでいます。また、労働災害の撲滅を目標に掲げて安全衛生活動に取り組んでいます。

日清紡グループは、人権と労働安全に関する基準を「日清紡グループ行動指針」に定め、社員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、心身ともに健康で安全に働ける職場環境の整備に努めています。

- 一人ひとりの多様性・人格・個性を尊重し、人種・民族・国籍・宗教・信条・性別・性的指向・性自認・障害の有無・年齢・出生・社会的地位等による差別を行いません。
- 差別のない雇用と処遇により、多様な人材が活躍できる、生き活きとした職場環境を実現します。
- ハラスメントやいじめ等の人権尊重に反する行為は行いません。
- いかなる形態であろうと、強制労働・児童労働等の非人道的な行いを認めません。
- 労働安全衛生に関する国内外の関係法規・関係基準等を遵守するとともに、安全最優先を基本として事業活動に取り組みます。
- 計画的な労働災害防止活動に日清紡グループ全体で取り組み、一人ひとりの心身の健康管理を推進して、安全で働きやすい職場環境を形成します。
- 事故を発生させないよう常に細心の注意を払い、決められた作業手順を守ります。
- 万一、事故や災害が発生した場合には、人命尊重を最優先に被害の最小化に尽力し、再発防止に努めます。

(日清紡グループ行動指針 より)

- ▶ 人権の尊重
- ▶ 人財の育成
- ▶ ダイバーシティマネジメント
- ▶ 安全と健康

[サイトマップ](#)
[サイトご利用上の注意](#)
[プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

▶ 環境

人権・労働慣行

▶ 人権の尊重

▶ 人財の育成

▶ ダイバーシティマネジメント

▶ 安全と健康

▶ 公正な事業慣行

▶ 消費者課題

▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書（ダウンロード）

▶ 編集方針



[ホーム](#) > [CSR](#) > [人権・労働慣行](#) > [人権の尊重](#)

人権の尊重

日清紡グループは人権を尊重し、より働きやすい職場づくりのために、当社経営戦略センター長を推進委員長、CSR室長を推進副委員長とする人権啓発推進体制のもと人権啓発活動に取り組んでいます。

人権啓発研修として年間を通じ、新入社員研修、全社員を対象にした全体研修などの体系的なプログラムを実施しています。また、社員の人権意識の高揚を目的に毎年12月の人権週間にちなんで、国内外子会社の社員と家族を対象に「人権啓発標語」の募集を行っています。

ハラスメント防止のため国内各子会社に「ハラスメント相談窓口」を設置、原則男女2名以上の担当者を置き、新任の担当者に相談対応のスキルを習得するための研修を実施しています。

また、サプライチェーンについての人権配慮を推進するために「日清紡グループCSR調達基本方針」や各子会社の「CSR調達ガイドライン」に、基本的人権の配慮や児童労働の禁止などを明記しています。

「性のダイバーシティ」に関するトップ層研修

日清紡グループは、多様な人財が差別されることなく活躍できる環境整備の実現を目指しています。その一環として、2016年8月に国内グループ会社トップ層を対象に「性のダイバーシティ」に関する研修を開催しました。

研修ではご自身も当事者であるGID（性同一性障害）学会理事、医師の松永千秋先生から、医学的な観点も交えLGBT、特に性同一性障害について講演いただきました。



「性のダイバーシティ」トップ層研修

CSR

[▶ マテリアリティとCSR目標](#)

[▶ 環境](#)

[▼ 人権・労働慣行](#)

人権の尊重

[▶ 人財の育成](#)

[▶ ダイバーシティマネジメント](#)

[▶ 安全と健康](#)

[▶ 公正な事業慣行](#)

[▶ 消費者課題](#)

[▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)

[▶ CSR調達基本方針](#)

[▶ 企業倫理通報制度](#)

[▶ 一般事業主行動計画](#)

[▶ CSR報告書（ダウンロード）](#)

[▶ 編集方針](#)

[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > 人権・労働慣行 > 人財の育成

人財の育成

日清紡グループは、「事業は人なり」という考えに基づき、人財育成のための施策に力を入れています。新入社員から中堅幹部・新課長・新部長へとつながる階層別研修や各種スキル研修、安全・人権・環境等の一般教育や事業・機能別の技術・経理・知財等の専門教育など体系的に研修制度を整備しています。加えて、経営幹部後継者に対し、将来の経営幹部としてふさわしいレベルのマインド・知識・役割行動の早期形成を図るための特別プログラムを実施しています。2016年からは将来の幹部育成等を目的とした「将来のグループ事業戦略を考える若手社員のワークショップ」を始めました。

その他、広く社員の自己啓発を後押しするための社外通学型研修や通信教育の受講料補助、資格取得の補助制度も設けています。

また、グローバルビジネスに対応できる人財の育成にも注力しています。異文化コミュニケーション、コンプライアンスおよびリスク管理等の知識を習得する海外派遣前研修や、35歳未満の若手社員を対象とした海外経験促進策などを実施しています。

さらに、語学力の向上のため海外派遣者向けに語学学校での研修、若手社員を対象とした2～6か月間の米国・中国での語学研修、またオンライン英会話やWEB上で受験できる語学判定ツールの活用支援を実施しています。2015年度からは、グループ会社共催で英語・ビジネス日本語の研修も実施しています。

主な研修・制度

階層別	入社時研修、中堅幹部育成研修、新課長・新部長研修
リーダー育成	論理的思考力向上研修、コーチング研修、経営戦略基礎研修、経営戦略研修、経営幹部育成プログラム、若手社員ワークショップ
グローバル・海外派遣者	海外英語・中国語研修制度、グローバル人財育成制度、海外派遣前研修、若手社員の海外経験促進策、海外渡航前・渡航後語学研修、海外子会社トップ研修、オンライン英会話受講補助、英文ライティング研修、日本語の論理構成研修、TOEIC受験補助、CASEC検定受験補助
自己啓発・キャリア支援	若手社員フォロー制度、N-OJT、目標管理制度、ニューチャレンジシステム（社内公募）、社外通学型研修、通信教育補助、資格取得補助など
一般	理念教育、安全教育、人権研修、環境教育、衛生教育、コンプライアンス研修、経理研修
専門	専門技術研修、管理監督者研修、技術教育、経理研修、知財研修

[サイトマップ](#)
[サイトご利用上の注意](#)
[プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

▶ 環境

▼ 人権・労働慣行

▶ 人権の尊重

人財の育成

▶ ダイバーシティマネジメント

▶ 安全と健康

▶ 公正な事業慣行

▶ 消費者課題

▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書（ダウンロード）

▶ 編集方針



[ホーム](#) > [CSR](#) > [人権・労働慣行](#) > [ダイバーシティマネジメント](#)

ダイバーシティマネジメント

日清紡グループでは、多様な価値観と能力を持った社員一人ひとりがその能力を最大限に発揮し、「未来共創」を実現する職場環境づくりを目指しています。

2015年より「女性の活躍推進」を最優先課題として、グループ全体の意識を変えていくために、各層向けの研修を実施しています。

時期	研修名	内容
2015年12月	経営層向け講演会	女性活躍推進策の手掛かりを得るために、日清紡グループの経営層が受講。
2016年2月～継続中	管理職層向け研修	女性活躍推進の本質的な意義を理解し、自身の持つバイアスに気づく・取り除くことを目的に管理職層全員を対象にした研修。
2016年3月～継続中	女性社員向け研修	女性活躍推進の本質的な意義を理解し、自身の持つバイアスを取り除き、自信を持って意欲的に仕事に取り組めるようになることを目的とした研修。
2017年1月～継続中	上司-女性部下合同研修	上司と女性部下がペアで参加し、グループ討議や面談を通じ中長期にわたるキャリアプランを一緒に作成。

女性活躍推進法 一般事業主行動計画

2016年4月に女性活躍推進法が施行され、女性の管理職数や採用比率など具体的な目標と達成期間を設定し、積極的に活動を進めています。これらの活動を通じ、当社では2017年1月に新たに部長1名・課長2名が誕生しました。

2017年度は「働き方改革：多様な人材が働きやすい就業環境の実現」を課題に加え、さまざまな施策を展開していきます。

- ▶ [一般事業主行動計画](#)

CSR

- ▶ [マテリアリティとCSR目標](#)

- ▶ [環境](#)

- ▼ [人権・労働慣行](#)

- ▶ [人権の尊重](#)

- ▶ [人財の育成](#)

[ダイバーシティマネジメント](#)

- ▶ [安全と健康](#)

- ▶ [公正な事業慣行](#)

- ▶ [消費者課題](#)

- ▶ [コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)

- ▶ [CSR調達基本方針](#)

- ▶ [企業倫理通報制度](#)

- ▶ [一般事業主行動計画](#)

- ▶ [CSR報告書（ダウンロード）](#)

- ▶ [編集方針](#)

[ホーム](#) > [CSR](#) > [人権・労働慣行](#) > [安全と健康](#)

安全と健康

日清紡グループは労働安全の行動指針である「安全最優先を基本として事業活動に取り組む」との考えに立ち、計画的な安全衛生活動を実施することで、一人ひとりの心身の健康管理の推進と、安全で働きやすい職場環境の形成を目指しています。

安全衛生活動

2016年度は、安全衛生目標を「重大災害0件」「国内休業度数率※10.3以下」「海外休業度数率0.2以下（TMDグループを除く※2）」として活動に取り組みました。

この目標達成のため、「『安全はすべてに優先する』意識の徹底」と「リスクアセスメント（作業、設備、化学物質）の推進の継続」「設備のリスク低減対策の水平展開の推進」を重点方針としてグループ各社に展開しました。なお、安全衛生の2016年度活動期間は4月～12月となっています。

各事業所では年度計画に従い、計画的に作業、設備、化学物質に対するリスクアセスメントを行い、優先順位を決めて予防対策を順次実施し、危険予知トレーニングやヒヤリハット報告などの小集団活動を通じて災害の防止に努めています。

さらに、リスクアセスメントの考え方や実施方法についてグループ内研修会を開催し、各社の安全担当者の理解を深め、レベルアップに取り組んでいます。また災害が発生した際には、速やかに再発防止対策を行うとともに労働災害発生報告をグループ全体に展開し、類似災害の防止を図っています。

※1 休業度数率：労働時間100万時間あたりの労働災害による死傷者数で休業災害発生頻度を表す指標

※2 TMDグループは災害発生頻度を把握する基準が異なるため、別管理をしています。

労働災害の発生状況

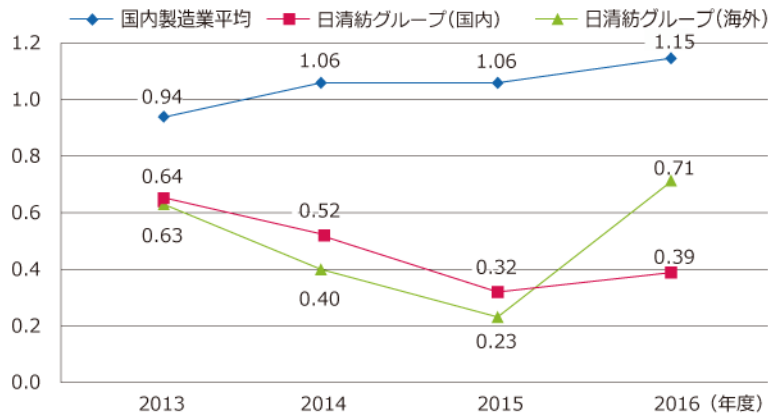
2016年度に重大災害（障害等級6級以上の災害）の発生はありませんでした。

災害の発生頻度を表す休業度数率は、国内事業所については国内の製造業平均値を下回る0.39となりましたが、2015年度の0.32に比べ悪化しました。海外事業所についても0.71となり、2015年度の0.23に比べ悪化しました。国内、海外とも休業度数率は目標未達となりましたが、災害が多発した事業所について引き続き重点指導を実施し、グループ全体の安全管理レベルの向上に努めていきます。

休業度数率推移

CSR

[▶ マテリアリティとCSR目標](#)[▶ 環境](#)[▼ 人権・労働慣行](#)[▶ 人権の尊重](#)[▶ 人財の育成](#)[▶ ダイバーシティマネジメント](#)[安全と健康](#)[▶ 公正な事業慣行](#)[▶ 消費者課題](#)[▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)[▶ CSR調達基本方針](#)[▶ 企業倫理通報制度](#)[▶ 一般事業主行動計画](#)[▶ CSR報告書（ダウンロード）](#)[▶ 編集方針](#)



海外事業所の活動

日清紡グループのグローバル化が進展し、海外の事業所数は国内を上回っています。国内事業所で発生した労働災害の再発防止の取り組みを海外全事業所においても展開するよう、グループ各社の経営層や安全事務局が現地で指導しています。

2016年度は、2015年度に国内グループ事業所に展開した日清紡ブレーキの危険体感教育機材を海外事業所にも展開し、災害を疑似体験することで作業員一人ひとりの危険感受性を高め、安全意識の向上を図りました。

また、化学物質の危険性の周知と保護具使用の徹底を継続し、健康障害の防止にも努めています。

安全衛生監査

日清紡グループでは、国内製造事業所を対象に定期安全衛生監査を実施しています。当社安全衛生管理グループ、労働組合、各事業代表の安全衛生管理責任者、他事業所の安全衛生管理者で編成した監査チームが、対象事業所の安全衛生管理状況を確認しています。2016年度は29製造事業所の定期安全衛生監査を実施しました。

これらの監査結果は、毎年年度末に総括監査報告としてまとめ、災害リスクの分析結果や優良な活動事例をグループ内に展開し、翌年度の労働安全衛生活動に活かしています。

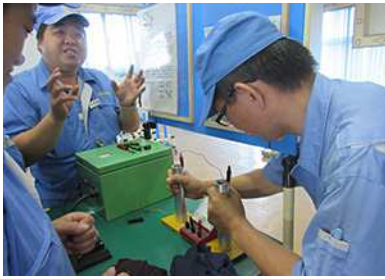
マネジメントレビュー

日清紡グループの安全衛生目標の達成状況、労働災害の発生状況、安全衛生監査結果などについて、当社経営戦略会議でマネジメントレビューを実施すると共に、翌年度の活動方針、目標の設定を行っています。

日清紡ブレーキ 安全道場

安全道場は日清紡ブレーキ（株）が豊田事業所に開設した教育施設で、巻き込まれ災害、腰痛災害、5S推進など13テーマの教育屋台で構成されています。ここでは講義中心の一方的な安全衛生教育ではなく、身近な危険を題材に労働災害の恐ろしさを疑似体験する危険体感教育や受講者自身が参加する参加型学習を行っています。例えば、巻き込まれ災害教育屋台では、「巻き込まれ災害の恐ろしさを実感する」を目的とし、ローラー、チェーンおよびドリルによる巻き込まれ体感ができます。腰痛災害教育屋台では等身大のモデルを使って、重量物を持つ際に腰部にどの程度の力が加わるかを目で見て学べます。また5S推進教育屋台では、冷蔵庫内の5Sを通じて5Sの定義、実施方法、効果を体得できます。同事業所の作業内容に合った教材を自ら考案し、創意工夫にあふれる体感装置を作製している事例として、2016年7月発行の労働安全衛生専門誌「安全スタッフ」にも紹介されました。

2015年度からは教育屋台を増設し、日清紡グループの海外事業所（韓国1事業所、中国6事業所、タイ4事業所、英国1事業所）に展開してきました。今では、海外事業所が自ら教育屋台を作製し教育を行うなど、海外でも安全道場教育が定着しつつあります。今後はさらにヨーロッパ、アメリカへ展開すると共に、新たなテーマの教育屋台の開発にも注力していく予定です。



日清紡精密機器（上海）での教育風景



英国TMDハートルポール事業所での教育風景

TMD 安全活動

TMDグループではすべての社員が積極的に労働災害防止と職場環境の改善に取り組み、2011年度に90件あった休業災害を2016年度に60%以上削減できました。特にクロツワルド（フランス）、キルマノック（英国）、バレンシア（スペイン）の各拠点では、無災害日数が1,000日を超える結果となり社内外の表彰を受けました。



労災保険基金による表彰式（クロツワルド）

健康管理

近年、社員の健康を重要な経営資源としてとらえ、健康増進に積極的に取り組みながら企業の生産性向上を同時に追求する「健康経営」が注目されています。2017年度からは健康保険組合と連携して優良な健康経営を実践している企業を顕彰するため「健康経営優良法人2017（大規模法人部門）～ホワイト500～」の認定が開始され、日清紡ホールディングス（株）と新日本無線（株）が認定されました。

日清紡グループでは、ストレスチェックを法令上実施義務のない従業員50人未満の事業所も含めて実施しました。また、産業保健スタッフを中心となって各事業所のニーズに合わせたメンタルヘルス研修を実施しています。

健康診断については受診後の確実なフォローと心身の疾病予防を軸とした健康管理を行い、健康を損なうリスクの一層の低減を目指して種々の施策を実行しています。例えば、健康診断結果に応じた産業医の面談や保健師による保健支援を行い、最終的には医療機関での受療までをサポートすることにより生活習慣病の予防を図っています。

さらに、家族の健康診断受診率の向上を図るため、健康保険組合と連携して事業所での集団健診に加え外部医療機関による受診機会を増やす取り組みを行っています。

また、社員の健康に対する意識向上につなげるため、各種の健康測定機器を使った「体験型健康展」の事業所での開催やイントラネットを使った健康課題の見える化など健康情報の発信に努めています。



体験型健康展（日清紡ホールディングス本社）



ホワイト500

新日本無線 健康経営

新日本無線（株）は、2016年4月に「ヘルシーカンパニー宣言」を公表し、「従業員および組織の健康が全ての基盤」であるとの認識の下、「いきいき」とした社員が「わくわく」して働ける企業グループを目指した健康経営をスタートさせました。

初年度の取り組みとして受動喫煙対策を行いました。具体的には、中期的な建屋内禁煙実施に向けた取り組みの第一歩として、従来の「空間分煙」に加え、新たに「時間分煙」を追加することで、就業時間中の喫煙可能時間を限定する施策を行うとともに、喫煙者に対する卒煙プログラムを実施したことで、同社の喫煙率は1年で4ポイント低下しました。



DBJ健康経営格付 認定証

その他、運動習慣付けの施策「+10ウォーキングチャレンジ」やストレスチェックなどを活用した組織活性化対策などを独自の取り組みとして行っています。

そうした取り組みが評価され、「健康経営優良法人2017（大規模法人部門）～ホワイト500～」に加えて、日本政策投資銀行が実施する「DBJ健康経営（ヘルスマネジメント）格付」の評価において最高ランク（Aランク）も取得しています。

[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nissinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

[ホーム](#) > [CSR](#) > [公正な事業慣行](#)

公正な事業慣行

基本姿勢

日清紡グループは、「企業公器」や「至誠一貫」の理念のもとに公正・誠実な姿勢を貫き、事業を通じて社会に貢献することを使命と捉えています。その実現のために遵守すべき基準を「日清紡グループ行動指針」に定め、公正な事業慣行を通じて社会から信頼されることを目指しています。

- 世界各国・地域において適用される、独占の禁止や公正な競争および公正な取引に関する法令等を遵守するとともに社会的良識をもって行動します。
- カルテル・談合・不正表示・機密情報の不正取得等はい行いません。
- 優越的な地位を利用して、お取引先に不利益を強いる行為は行いません。
- 社会的常識や健全な商慣習に反する接待や贈答を受けたり行ったりしません。また、職務上の地位を私的な利益のために用いません。
- 国内外の政治家・公務員およびそれに準ずる者に対して、営業上の不当な利益を得るための利益供与・便宜供与と見なされる接待・贈答品の提供は行いません。
- 国際的な平和と安全を維持するために、輸出入に際しては、各国の関連法令を遵守し、適正な取引を行います。
- 業務上知りえた日清紡グループおよび第三者の機密情報については、これを他に漏洩することなく、業務以外の目的に使用しません。
- 知的財産権を保護・管理することはもとより、第三者の知的財産権についても、それを侵害しません。
- 自らがインサイダー取引を行わないことはもとより、家族・友人等にもインサイダー取引につながる情報を漏らしません。
- 個人情報厳重に管理し、正当な理由なく第三者に開示しません。
- 社会の秩序や安全に脅威を及ぼす全ての反社会的勢力とは、事業活動のあらゆる局面において一切の関係を持ちません。
- 国内外のすべての企業に公平な機会を提供し、公正かつ透明な取引を行います。
- 健全な取引関係を通じた対等なパートナーとしてお取引先を尊重し、お互いの成長と発展を目指します。
- 法令や社会規範を遵守するとともに、コンプライアンス、環境保全、人権、労働安全、品質・安全性等の社会的責任に十分配慮した調達活動を展開します。

(日清紡グループ行動指針 より)

CSR

[▶ マテリアリティとCSR目標](#)[▶ 環境](#)[▶ 人権・労働慣行](#)[公正な事業慣行](#)[▶ コンプライアンス](#)[▶ 公正な競争・取引](#)[▶ 情報セキュリティ](#)[▶ 消費者課題](#)[▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)[▶ CSR調達基本方針](#)[▶ 企業倫理通報制度](#)[▶ 一般事業主行動計画](#)[▶ CSR報告書（ダウンロード）](#)[▶ 編集方針](#)[▶ コンプライアンス](#)[▶ 公正な競争・取引](#)[▶ 情報セキュリティ](#)[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ プライバシーポリシー](#)**日清紡ホールディングス株式会社**

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > 公正な事業慣行 > コンプライアンス

コンプライアンス

コンプライアンス教育

日清紡グループでは、公正な事業活動の遂行を目指して階層別および職場別研修、海外派遣前研修などを通じて各種コンプライアンス教育を実施しています。

また、各子会社では担当者を対象に独占禁止法および下請法（下請代金支払遅延等防止法）に関する実務面の教育を推進しています。

南部化成 研修活動

2015年10月に日清紡グループ入りした南部化成（株）は、日清紡グループの企業理念と行動指針を一冊にまとめた小冊子を作成しました。携帯しやすくコンパクトなこの小冊子を同社とその子会社の社員に配布し、2017年1月開催の経営方針発表会において研修を実施しました。新入社員や中途採用社員には受入教育時に同冊子を用い、企業理念・行動指針の共有を図っています。

あわせて日清紡グループの行動指針（人権）の浸透のため、管理職層約70名を対象に「人権啓発導入時研修」を実施しました。



企業理念、行動指針の小冊子



経営方針発表会

腐敗防止の取り組み

近年、贈収賄・腐敗行為に関する法規制の執行が国際的に強化され、摘発が厳格化しています。当社は日清紡グループ行動指針に、その取り組みについて定め、違反行為の防止に努めています。2015年度には海外の関連法令への対応も念頭に「腐敗行為防止のてびき」を策定し、海外グループ会社を含む全子会社に展開しました。このてびきは、日本の不正競争防止法第18条（外国公務員等に対する不正の利益の供与等の禁止）はもとより腐敗の防止に関する国際連合条約（UNCAC）、国際商取引における外国公務員に対する贈収賄防止に関するOECD条約、米国連邦海外腐敗行為防止法（FCPA）とそのガイドライン、英国 賄賂防止法（UK Bribery Act）等国際的な腐敗防止に関する条約や法令を対象としています。2016年度も、最新情報に対応した内容に改定し全子会社で活用しています。

機密保持の徹底

CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

▶ 環境

▶ 人権・労働慣行

▼ 公正な事業慣行

コンプライアンス

▶ 公正な競争・取引

▶ 情報セキュリティ

▶ 消費者課題

▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書（ダウンロード）

▶ 編集方針

サプライヤーさまと設計・開発段階から連携する中で開示を受けた知的財産や技術・ノウハウに関する情報などについては、機密保持契約を取り交わし、漏えい防止を図っています。

また、営業秘密管理については、毎年内部監査を実施し、適切に管理されていることを確認しています。

[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.


[ホーム](#) > [CSR](#) > [公正な事業慣行](#) > [公正な競争・取引](#)

公正な競争・取引

CSR調達

当社はサプライチェーン全体としてCSRに取り組むために基本となる考えを「日清紡グループCSR調達基本方針」としてまとめています。

CSR調達を確実に推進するため2017年度はグループ会社各社で「CSR調達ガイドライン」を策定し、CSR調達の推進をKPIのひとつとして設定しました。今後CSR調達の取り組みをサプライヤーさまとともに推進していきます。

長野日本無線 公正な取引

長野日本無線（株）はサプライヤーさまとの信頼関係を構築し、安定かつ継続的な事業活動が行えるようCSR調達への取り組みを全社的に進めています。

毎年2回、パートナー会社約50社を対象に事業動向説明会を開催し、CSR調達への協力を要請しています。さらに主要サプライヤーさま約360社に対しコンプライアンス強化の要請やCSR調査を実施しています。また、グリーン調達ガイドラインをホームページに掲載し、環境に配慮した部材の調達に取り組んでいます。



事業動向説明会

さらに調達部門員に対し下請法に関する教育を定期的実施し、サプライヤーさまを対象とした下請法に係る相談窓口を開設して公正な取引の推進を図っています。

独占禁止法違反 再発防止の取り組み

日本無線（株）は、消防救急デジタル無線機器の取引に関して、2017年2月に公正取引委員会より独占禁止法に違反する行為があったとして排除措置命令および課徴金納付命令を受けました。同社では、営業職、技術職向けの教育・研修等によるコンプライアンス意識の向上、競合他社との接触ルールの整備、販売規則・細則の見直しや再徹底等を行い、再発防止に向けた体制の一層の強化に努めております。

当社グループは、コンプライアンスのさらなる徹底と、ガバナンスの強化に引き続き取り組んでまいります。

紛争鉱物への対応

紛争鉱物とはコンゴ民主共和国およびその近隣周辺地域で採掘され、武装勢力などの資金源になっている4鉱物（錫、タンタル、タングステン、金）です。2013年1月に米国金融規制改革法（ドッド・フランク法）の紛争鉱物問題に関する1502条が施行され、米国証券市場に上場している企業は自社製品について紛争鉱物使用の有無を開示するよう義務づけられました。

CSR

[▶ マテリアリティとCSR目標](#)
[▶ 環境](#)
[▶ 人権・労働慣行](#)
[▼ 公正な事業慣行](#)
[▶ コンプライアンス](#)
[公正な競争・取引](#)
[▶ 情報セキュリティ](#)
[▶ 消費者課題](#)
[▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)
[▶ CSR調達基本方針](#)
[▶ 企業倫理通報制度](#)
[▶ 一般事業主行動計画](#)
[▶ CSR報告書（ダウンロード）](#)
[▶ 編集方針](#)

エレクトロニクス、車載、化学品、精密機器事業などに関わる日清紡グループの各社も、米国上場企業のサプライチェーンに連なる企業として、紛争鉱物の使用状況について調査し、お客さまに報告しています。

今後も、サプライヤーさまと連携しながら、人権侵害や暴力行為への加担を回避するなど、より責任ある調達に向けた取り組みを推進していきます。

[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > 公正な事業慣行 > 情報セキュリティ

情報セキュリティ

個人情報保護への取り組み

日清紡グループは、お客さま・サプライヤーさま・社員などに係る大切な情報の保護と適切な管理を重要な社会的責務と認識し、この責務を果たすために「個人情報保護方針（プライバシー・ポリシー）」を定め、個人情報を取り扱っています。また、社内規定の運用状況を内部監査により確認し、外部への漏えい防止の徹底と継続的な改善に取り組んでいます。

また、社員一人ひとりに個人情報保護への意識を浸透させるために、入社時の基礎知識の教育や年度計画に基づく各職場単位での教育を実施しています。さらに2013年度からは、管理職昇格時の教育カリキュラムにも個人情報保護に関する教育を組み入れています。加えて、2016年1月からのマイナンバー制度の運用開始に対応し、特定個人情報等を適正に取り扱うための「特定個人情報取扱規定」を制定し関係者に周知徹底しました。

東京シャツ 個人情報保護

東京シャツ（株）はシャツの企画から製造・小売まで一貫して行う業界最大手の製造小売業です。同社はショッピングモールを中心に全国に約200店舗を展開するほか、オンラインショップも開設しています。

個人情報の保護は社会的責務であると考え、お客さまに安心してご利用いただけるウェブサイトの管理・運営を行うため、「個人情報保護方針」に基づき「ウェブサイトにおける個人情報の取扱い」を定めています。お客さまの個人情報についてアクセス管理、持ち出し手段の制限や不正アクセスに対する合理的な安全対策を講じています。

情報セキュリティへの取り組み

日清紡グループでは、お客さまの個人情報をはじめとする機密情報の漏えいを防ぐため、情報セキュリティの強化に向けたさまざまな対策を継続的に進めています。

コンピュータウイルス攻撃への対策として、情報機器へのウイルス対策ソフトの導入およびセキュリティ修正プログラムの適用を徹底しています。また、情報セキュリティ管理システムにより、重要データへのアクセス監視や未許可情報機器のネットワーク接続制限等の運用を行っています。これらにより、内部不正による情報漏えいの防止・抑制や外部からの攻撃防止に努めています。

グループ各社が守るべきルールを「情報セキュリティガイドライン」に定めており、その遵守状況を確認するために、IT内部監査を国内外の子会社に対し定期的を実施し、継続的改善を図っています。

情報システム利用者が守るべきルールを教育資料として定め、定期教育を通じグループ全体の利用者へ情報セキュリティ対策への意識向上を図っています。

また、大規模災害発生時の事業継続の観点から、社内サーバー室に設置している業務サーバーの外部データセンターへの移行を進めています。

CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

▶ 環境

▶ 人権・労働慣行

▼ 公正な事業慣行

▶ コンプライアンス

▶ 公正な競争・取引

情報セキュリティ

▶ 消費者課題

▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展

▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書（ダウンロード）

▶ 編集方針

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

[ホーム](#) > [CSR](#) > [消費者課題](#)

消費者課題

基本姿勢

日清紡グループは「未来共創」の理念のもとに、イノベーションにより独創的な新しい価値を創造し続け、豊かな社会づくりに貢献することを目指しています。

お客様の求める機能と品質を備えた製品・サービスを適時に安定的にお届けするとともに、優れた品質でお客様に満足と信頼をいただくための製品安全基準を「日清紡グループ行動指針」に定め、お客さま起点の価値創造に取り組んでいます。

- 社会に有用で安全な製品・サービスを開発・提供することで、ステークホルダーの満足と信頼を獲得します。
- 製品の開発から調達・製造・販売・使用・サービス・廃棄に至る全製品ライフサイクルにおいて、安全に配慮した製品づくりを行います。
- 製品・サービスの安全性確保のため、国内外の関係法規・関係基準等を遵守することはもとより、自主的により高い目標に取り組めます。
- 製品・サービスの安全で正しい利用方法等に係る的確な情報をわかりやすく提供します。
- 製品・サービスに係る事故・トラブル等により、お客さまの安全に影響を及ぼすおそれがある場合には、速やかにその事実を公表し、適切・迅速に対応します。
- 製品・サービスの品質や安全性に係る管理体制を確立し、製品安全意識を徹底します。

(日清紡グループ行動指針 より)

[▶ お客さまへの対応](#)

CSR

[▶ マテリアリティとCSR目標](#)

[▶ 環境](#)

[▶ 人権・労働慣行](#)

[▶ 公正な事業慣行](#)

消費者課題

[▶ お客さまへの対応](#)

[▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)

[▶ CSR調達基本方針](#)

[▶ 企業倫理通報制度](#)

[▶ 一般事業主行動計画](#)

[▶ CSR報告書 \(ダウンロード\)](#)

[▶ 編集方針](#)

[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > 消費者課題 > お客さまへの対応

お客さまへの対応

日本無線 失敗の知識化

日本無線（株）マリンシステム事業部では、設計に関わる不具合の真因を深掘りし、その根底にある「気づきの不足」を抽出しています。そしてその結果を知識化し、情報として検索・共有できるようデータベース化して失敗の再発防止を図っています。

実例としては、かつて既存の衛星通信機器で使用実績のあるケーブル保護部品を新機種に採用したところ、ハーネスの断線という不具合が発生したことがありました。過去に使用して問題が発生しなかった部品・部材・方法は他の機器で使用しても「問題が発生するはずがない」とする固定観念こそが不具合の本質的な原因でした。そこで、「旧機種や他の機器の可動部に採用した部品・部材等を新機種に採用する場合には、新機種の使用部位での評価を必ず実施すること」を知識化し、「旧機種で使用していた部品は、他の機器で使うと『新部品』である」という教訓として設計者が認識できるようにしました。

同社では新たな不具合が発生するたびに失敗情報を知識化してデータベースに追加し、新規設計や設計変更時に広く活用しています。また、設計者が世代交代しても知識・教訓を活かせるよう、データベースへの登録、設計時の参照をルール化しています。

日清紡ケミカル 品質管理

「カルボジライト」は、日清紡ケミカル（株）が開発したポリカルボジミド樹脂をベースとした商品群で、化学反応性、金属等への密着性、低毒性、高い耐熱性などのユニークな特徴を持っています。カルボジライトは樹脂の改質材で、生分解性プラスチックの耐久性向上や、自動車や建築材料等の水性塗料やインクの塗膜性能、密着性、耐久性向上などに使用されています。

世界の多くの国でご使用いただくにあたり、製品性能はもちろんのこと、人体、環境への影響評価、年々厳しくなる各国の化学物質管理規制の要求を満たす安全、安心な商品の開発を行っています。また製造、販売においても国ごとの言語・規則に対応したSDS（Safety Data Sheet：安全データシート）の提供、含有物質の管理など品質管理システム（ISO9001）による継続的な改善に取り組んでいます。

さらにさまざまな分野のお客さまに安心してご使用いただくため、2016年11月に「営業支援システム」を導入しました。品質情報やお客さまの要望事項をタイムリーに集約して各部署間で共有化し、顧客満足度のより一層の向上に繋がるよう改善を進めています。

日清紡テキスタイル 「消費科学フロンティア賞」受賞

日清紡テキスタイル（株）の形態安定シャツ「アポロコット」が、一般社団法人日本繊維製品消費科学会の「2016年消費科学フロンティア賞」を受賞しました。「消費科学フロンティア賞」は2016年度に新設された賞で、生活文化にインパクトを与え、新たな価値観の創造に繋がる役割を果たし独創性に富んだ繊維製品の研究・開発者に対して授与されます。

「アポロコット」は綿100%で初めてW&W性*4級を達成し、洗濯後のシワだけではなく、着用時のシワ



「アポロコット」受賞式

CSR

▶ [マテリアリティとCSR目標](#)

▶ [環境](#)

▶ [人権・労働慣行](#)

▶ [公正な事業慣行](#)

▼ [消費者課題](#)

[お客さまへの対応](#)

▶ [コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)

▶ [CSR調達基本方針](#)

▶ [企業倫理通報制度](#)

▶ [一般事業主行動計画](#)

▶ [CSR報告書（ダウンロード）](#)

▶ [編集方針](#)

も防ぐ製品です。「アポロコット」により消費者にとって時間や手間が掛かるアイロンがけ作業が不要となり、消費生活の発展に寄与するものとして賞されました。

※W&W性（ウォッシュ&ウエア性）：洗濯後のシワの残り具合を表す指標。W&W性5.0級をアイロン掛け後のシワのない状態とし、4.0級以上はシワカット率90%以上となる。

2016年度の主な表彰

エレクトロニクス

日本無線（株）	（公財）防衛基盤整備協会から「防衛基盤整備協会賞」を受賞
新日本無線（株）	トヨタ自動車（株）広瀬工場さまから「広瀬工場納入品質 最優秀賞」を受賞 パナソニック（株）さまから「技術開発貢献賞 優良賞」を受賞
THAI NJR CO., LTD.	タイ労働省からNational Occupation Safety and Health Awardを受賞

ブレーキ

日清紡ブレーキ（株）	トヨタ自動車（株）さまから「品質管理 優秀賞」を受賞
Nisshinbo Automotive Manufacturing Inc.	General Motrors CompanyさまよりNissin Brake Quality & Delivery Award - 2016を受賞
Nisshinbo Somboon Automotive Co., Ltd.	Hitachi Automotive Systems Asia, Ltd.さまからQuality Performance Awardを受賞 TOYOTA MOTOR ASIA PACIFIC ENGINEERING & MANUFACTURING CO., LTD.（現 TOYOTA DAIHATSU ENGINEERING & MANUFACTURING CO., LTD.）さまからTotal Service Parts Performanceを受賞
Saeron Automotive Corporation	（株）萬都さまより2016 Supplier of the Yearを受賞 大韓産業保健協会より「地域表彰」を受賞
賽龍（北京）汽車部件	Mando China Holdings Ltd.さまより「品質競争力部門優秀業者」を受賞
日清紡賽龍（常熟）汽車部件	中山日信工業有限公司さまより「品質優秀賞」を受賞

精密機器

日清紡メカトロニクス（株）	日野自動車（株）さまより「技術開発賞 優秀賞」を受賞
日清紡精機広島（株）	マツダ（株）さまから「品質実績優秀賞」を受賞
日清紡精密機器（上海）有限公司	上海市浦東新区新場鎮人民政府より「十大貢献企業賞」を受賞 Mitsubishi Electric US, Inc.さまより「ダイヤモンドサプライヤー賞」を受賞
日清紡大陸精密機械（揚州）有限公司	揚州市江都区より「先進企業」として表彰 揚州市江都区より「開票増幅奨」を受賞 江蘇省より「優秀スマート化工場」として表彰

Toms Manufacturing Corporation	Yamaha Motor Philippines, Inc.さまより Best Achieved 5 consecutive years PPM Award を受賞 Jeco Autoparts Philippines,Inc.さまより 2016 Best in Quality Award を受賞
Nanbu Philippines Incorporated	Yazaki Torres Mfg. Inc.さまよりTIER 1 Hazard-Eco Expansion Training to Local Suppliersに認証

繊維

日清紡テキスタイル (株)	(一社) 日本繊維製品消費科学会から「2016年消費科学フロンティア賞」を受賞
---------------	---

- ▶ [サイトマップ](#)
- ▶ [サイトご利用上の注意](#)
- ▶ [プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

ホーム > CSR > コミュニティへの参画、コミュニティの発展

コミュニティへの参画、コミュニティの発展

地域との交流・貢献活動

長野日本無線 絵本寄贈

長野日本無線（株）は、長野県内で開催されている「子どもたちに絵本を贈る」イベントに2013年から毎年参加しています。2016年度は長野県内の84企業と共同で（財）長野県児童福祉施設連盟を通じ21の児童養護施設に330冊の絵本を寄贈しました。施設では絵本の魅力や楽しさを伝え、本と子どもたちを結ぶために「読み聞かせ」が行われました。子どもたちが楽しく充実した時間を過ごした上に、読み手も子どもたちの成長が実感できる大切な時間となりました。



絵本の寄贈

「表現力や思考力に溢れる児童」に育ってほしいとの願いを込め、今後もこの活動を続けていきます。

ブレーキ事業 海外地域貢献活動

米国

Nisshinbo Automotive Manufacturing Inc.（NAMI）では、米国がん協会主催のチャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ」に参加しています。「リレー・フォー・ライフ」はがん患者やその家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、がん制圧をめざす活動で、世界25カ国、約6000カ所で開催されています。地元の教会で行われたイベントに会社として参加し、社員も手作りデザートを販売、その売上を寄付しました。また「がん患者は24時間、がんに向き合っている」という想いを共有し支援するため、夜通し歩くりレーイベントに社員5名が参加しました。



リレー・フォー・ライフ

そのほか、ひいきのスポーツチームのユニフォームを着るチャリティーイベント「ニュートンファンド ジャージーディ」、コートや毛布を恵まれない人たちに贈る救世軍のイベント、心臓病予防を呼びかける米国心臓協会のイベント「ゴー・レッド・ファンズ」、献血などさまざまな活動に参加しています。

韓国

Saeron Automotive Corporation（SAC）では2015年から毎年、「愛の練炭配達」を実施しています。社員やその家族が2,000個の練炭を近隣の生活保護世帯や独身高齢者世帯に直接届けています。住民の皆さんはこの練炭でオンダル（床暖房）を稼働し、厳しい冬を暖かく過ごしています。

また同社では2008年から毎年、年末に恵まれない人々への寄付を行っています。社員の賛同金と会社の寄付を合わせて1,000万ウォン（約100万円）が地域の恵まれない家庭の支援に使われています。

CSR

▶ マテリアリティとCSR目標

▶ 環境

▶ 人権・労働慣行

▶ 公正な事業慣行

▶ 消費者課題

コミュニティへの参画、コミュニティの発展

▶ CSR調達基本方針

▶ 企業倫理通報制度

▶ 一般事業主行動計画

▶ CSR報告書（ダウンロード）

▶ 編集方針



愛の練炭配達



地域への寄付

[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ フライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

[ホーム](#) > [CSR](#) > [CSR調達基本方針](#)

CSR調達基本方針

2015年6月1日

日清紡グループは、CSRへの取り組みの一環として、日清紡グループ行動指針において、調達方針について宣言しています。

これに加え、より具体的に、法令遵守、公正取引、情報セキュリティ、環境保全、人権、安全衛生、品質・安全、などの視点から、以下の7項目からなる「日清紡グループCSR調達基本方針」を制定しました。

1. 法令・社会規範を遵守していること
2. 健全且つ公正な取引を行っていること
3. 情報の管理を適切に行っていること
4. 環境保全に配慮していること
5. 基本的人権を尊重していること
6. 安全衛生活動に取り組んでいること
7. 製品・サービスの品質や安全性の確保に努めていること

これらをサプライヤーさまにお願いすることにより、CSRの取り組みをサプライチェーン全体で推進します。

CSR

[▶ マテリアリティとCSR目標](#)[▶ 環境](#)[▶ 人権・労働慣行](#)[▶ 公正な事業慣行](#)[▶ 消費者課題](#)[▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)[CSR調達基本方針](#)[▶ 企業倫理通報制度](#)[▶ 一般事業主行動計画](#)[▶ CSR報告書（ダウンロード）](#)[▶ 編集方針](#)[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ プライバシーポリシー](#)**日清紡ホールディングス株式会社**

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.





ホーム > CSR > 企業倫理通報制度

企業倫理通報制度

日清紡グループでは、「至誠一貫」の基本理念のもと、事業活動全般において全社員に対し、企業倫理の浸透・定着に努めております。その一環として、社内に限らず広くステークホルダーの皆さまにもご利用いただける企業倫理通報制度を設け、法令違反ほかに対する早期発見と是正・再発防止を行っています。

日清紡グループにおける法令違反や企業倫理に反する事項、もしくはそれらの疑義行為にお気づきの場合には、窓口まで相談・通報いただくようお願いいたします。事実関係の調査のうえ、適切に対応いたします。匿名で相談・通報することも可能ですが、お名前・連絡先をいただいた方へは対応策について、その概要を連絡させていただきます。

日清紡グループは、今後も真摯な取り組みを通じて企業の社会的責任を果たし、一層の企業価値向上を実現させてまいります。

相談・通報先

日清紡ホールディングス株式会社 企業倫理委員会 受付窓口
 電話・FAX番号 03-5695-8851

[相談・通報フォーム](#)

CSR

- [▶ マテリアリティとCSR目標](#)
- [▶ 環境](#)
- [▶ 人権・労働慣行](#)
- [▶ 公正な事業慣行](#)
- [▶ 消費者課題](#)
- [▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)
- [▶ CSR調達基本方針](#)
- [▶ 企業倫理通報制度](#)
- [▶ 一般事業主行動計画](#)
- [▶ CSR報告書（ダウンロード）](#)
- [▶ 編集方針](#)


[ホーム](#) > [CSR](#) > [一般事業主行動計画](#)

一般事業主行動計画

次世代育成支援

次世代育成支援対策推進法^{※1}に基づき、日清紡グループ^{※2}では従業員が能力を発揮し、仕事と生活の調和を図りながら働き続けることができる環境整備を行うため、次の「一般事業主行動計画」を策定しております。



「くるみん」マーク

計画期間

2015年4月1日から2018年3月31日までの3年間

内容

目標1	子ども看護休暇をより利用しやすいものにする
対策	<ul style="list-style-type: none"> 2015年4月～6月：子ども1人の場合無給1日分、および2人以上の場合無給2日分を有給に変更することについて、労働組合と協議 2015年度：制度の導入、イントラネット等による社員への周知
目標2	積立有給休暇制度をより利用しやすいものにする
対策	<ul style="list-style-type: none"> 2015年度：積立有給休暇制度の適用範囲を育児に拡大することについて、労働組合と協議 2016年度：制度の導入、イントラネット等による社員への周知

※1 次世代育成支援対策推進法とは、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境の整備を行うため、2005年4月1日に施行された法律です。

※2 本件の対象グループ会社は以下の会社を指します。

日清紡ホールディングス（株）、日清紡プレーキ（株）、日清紡メカトロニクス（株）、日清紡ケミカル（株）、日清紡テキスタイル（株）

女性活躍推進

女性活躍推進法^{※3}に基づき、日清紡ホールディングス（株）は、女性をはじめとする多様な人財がいきいきと働き、その能力を最大限に発揮し活躍できるよう、次の一般事業主行動計画を策定しております。

CSR

[▶ マテリアリティとCSR目標](#)
[▶ 環境](#)
[▶ 人権・労働慣行](#)
[▶ 公正な事業慣行](#)
[▶ 消費者課題](#)
[▶ コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)
[▶ CSR調達基本方針](#)
[▶ 企業倫理通報制度](#)
[一般事業主行動計画](#)
[▶ CSR報告書（ダウンロード）](#)
[▶ 編集方針](#)

計画期間

2016年4月1日～2020年3月31日

当社の課題

- (1) 管理職に占める女性の割合が少ない。
- (2) 総合職に占める女性の割合が少ない。

目標

- (1) 女性管理職数を現在の2倍にする。
- (2) 女性新卒総合職の採用比率を事務系4割以上とする。

取り組み内容と実施機関

- (1) 管理職を含めた従業員の意識改革を推進する。
 - ① 2016年4月～ 管理職全員を対象に意識改革を目的とした研修を定期的を実施する。
 - ② 2016年4月～ 女性社員を対象に意識改革を目的とした研修を定期的を実施する。
- (2) 多様性に対応した人事制度への改定を実施する。
 - ① 2016年4月～ 女性をはじめ従業員全員がいきいきと働き、その能力を最大限発揮できるよう、人事制度の改定を行う。

当社以外の国内グループ会社11社でも、同様の取り組みを実施しています。

※3 女性活躍推進法とは、女性が、職業生活において、その希望に応じて十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備するため、2016年4月1日に施行された法律です。

[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.



[ホーム](#) > [CSR](#) > [CSR報告書 \(ダウンロード\)](#)

CSR報告書 (ダウンロード)

日清紡グループでは、CSR報告書を2008年より発行しています。

2017年よりウェブサイトのみでの報告とさせていただきます。2016年までのCSR報告書につきましては、以下よりダウンロードいただけます。

バックナンバー



CSR報告書2016

▶ 和文版[6.05MB]



CSR報告書2015

▶ 和文版[6.05MB]



CSR報告書2014

▶ 和文版[4.56MB]



CSR報告書2013

▶ 和文版[5.39MB]



CSR報告書2012

▶ 和文版[4.98MB]



CSR報告書2011

▶ 和文版[2.53MB]

CSR

▶ [マテリアリティとCSR目標](#)

▶ [環境](#)

▶ [人権・労働慣行](#)

▶ [公正な事業慣行](#)

▶ [消費者課題](#)

▶ [コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)

▶ [CSR調達基本方針](#)

▶ [企業倫理通報制度](#)

▶ [一般事業主行動計画](#)

[CSR報告書 \(ダウンロード\)](#)

▶ [編集方針](#)



CSR報告書2010

▶ 和文版[6.70MB]



CSR報告書2009

▶ 和文版[2.01MB]



CSR報告書2008

▶ 和文版[2.57MB]



決算書類はPDFをダウンロードしてご覧いただけます。
PDFファイルをご覧になるには、「Adobe® Reader®」が必要です。

▶ [サイトマップ](#) ▶ [サイトご利用上の注意](#) ▶ [プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.

[ホーム](#) > [CSR](#) > [編集方針](#)

編集方針

日清紡グループはCSR活動に関する情報を広くステークホルダーの皆さまにご報告するためにウェブサイトで開示しています。

1.対象期間

2016年度（2016年4月1日～2017年3月31日）を中心に掲載。

2.対象範囲

持株会社である日清紡ホールディングス（株）と連結子会社を報告対象としています。日清紡ホールディングス（株）を「当社」、グループ全体を「日清紡グループ」と記載しています。

3.参考ガイドラインなど

- ・ 環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
- ・ 環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
- ・ GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」
- ・ ISO26000

CSR

- ▶ [マテリアリティとCSR目標](#)
- ▶ [環境](#)
- ▶ [人権・労働慣行](#)
- ▶ [公正な事業慣行](#)
- ▶ [消費者課題](#)
- ▶ [コミュニティへの参画、コミュニティの発展](#)
- ▶ [CSR調達基本方針](#)
- ▶ [企業倫理通報制度](#)
- ▶ [一般事業主行動計画](#)
- ▶ [CSR報告書（ダウンロード）](#)
- ▶ [編集方針](#)

[▶ サイトマップ](#) [▶ サイトご利用上の注意](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

日清紡ホールディングス株式会社

Copyright © 1996 -2018 Nisshinbo Holdings Inc. All Rights Reserved.